

2023 理学療法学科 那覇校昼間主シラバス

科目名		文学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		山城 初子	科目副担当	0
目 標	総合	自分の言いたいことが相手に伝わるように、口頭や文章で表現できる。		
	行動	1. 疑問に思ったことを調べたり、尋ねたりできる。2. 日本語の敬意の表し方を知る。3. 沖縄の文		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション		
	第2回	コラムの書写		
	第3回	身体に関する語句の読みと意味の練習		
	第4回	四字熟語について（1）		
	第5回	四字熟語について（2）比喩表現について		
	第6回	抽象的表現を読み取る		
	第7回	敬語の基本知識について、短歌を味わう		
	第8回	電話の応答について、俳句を味わう		
	第9回	詩の鑑賞		
	第10回	沖縄方言の概説、琉歌に触れる		
	第11回	語句（骨格等、専門分野関係）の練習		
	第12回	DVDを見て感想を書く		
	第13回	1分間スピーチの原稿作成		
	第14回	1分間スピーチ発表		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		生物学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		宮里 幸利	科目副担当	0
目 標	総合	生物の基礎を理解する。		
	行動	1. 動物細胞の構造と機能と分裂について説明できる 2. 人の受精卵～胎児までの流れが説明できる 3		
講 義 計 画	第1回	細胞の構造と生命誕生		
	第2回	生命体を構成する物質		
	第3回	遺伝子の構造と機能		
	第4回	生体とエネルギー		
	第5回	光合成と窒素同化		
	第6回	細胞の分裂、情報伝達、ガン化		
	第7回	生命体の授精と成長		
	第8回	確認テスト		
	第9回	多細胞生物の自己維持機構		
	第10回	遺伝のしくみと遺伝病		
	第11回	生物と環境がつくる生態系		
	第12回	生物の進化と多様性		
	第13回	生命科学技術と社会		
	第14回	確認テスト		
	第15回	まとめ		
教科書		生理学・生化学につながるていねいな生物学		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		情報処理	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊 富士雄	科目副担当	0
目 標	総合	"情報処理技法では、基本的なPC操作について学習をし今後も必要となるスキルアップを身に	
	行動	Wordの操作ができるExcelの操作ができるPowerPointの操作ができるipadの操作ができる	
講 義 計 画	第1回	コンピュータの基本操作	
	第2回	インターネットの利用方法	
	第3回	Word実習（１）：Wordの基本操作	
	第4回	Word実習（２）：表とオブジェクトの利用	
	第5回	Word実習（３）：ビジネス文書の作成	
	第6回	Word実習（４）：ワードアートの利用	
	第7回	Excel実習（１）：Excelの基本操作	
	第8回	Excel実習（２）：関数の利用	
	第9回	Excel実習（３）：グラフの作成	
	第10回	Excel実習（４）：データベースの利用	
	第11回	Excel実習（５）：統計分析	
	第12回	PowerPoint実習（１）：PowerPointの基本操作	
	第13回	PowerPoint実習（２）：スライドショーとアニメーションの利用	
	第14回	PowerPoint実習（３）：スライドの作成	
	第15回	PowerPoint実習（４）：発表演習	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		医学英語		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		宮城 嗣高	科目副担当	0
目 標	総合	解剖・運動学で学ぶ筋や骨、また臨床にて必要となる各疾患等の名称を医学英語にて学習し、		
	行動	医療で使用する一般的な単語が理解できる各部位の単語が理解できる各部位の単語を表出できる		
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション・職種についての医学英語		
	第2回	姿勢の分類について		
	第3回	身体の面・方向・位置について		
	第4回	身体部位について（骨・関節等）		
	第5回	基本的運動方向について		
	第6回	運動について		
	第7回	筋収縮について		
	第8回	関節可動域等について		
	第9回	福祉用具・リハビリ機器について		
	第10回	病態・疾患について		
	第11回	筋について（1）		
	第12回	筋について（2）		
	第13回	筋について（3）		
	第14回	医療現場で使われる用語・略語		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験・小テスト		
履修 アドバイス		0		

科目名		心理学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		大城 貞則	科目副担当	0
目 標	総合	人の心の機能について知る		
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明で		
講 義 計 画	第1回	心理学とは		
	第2回	知覚の心理学Ⅰ		
	第3回	知覚の心理学Ⅱ		
	第4回	記憶の心理学Ⅰ		
	第5回	記憶の心理学Ⅱ		
	第6回	学習の心理学Ⅰ		
	第7回	学習の心理学Ⅱ		
	第8回	発達の心理学Ⅰ		
	第9回	発達の心理学Ⅱ		
	第10回	青年期の心理Ⅰ		
	第11回	青年期の心理Ⅱ		
	第12回	性格の心理学		
	第13回	社会心理学Ⅰ		
	第14回	社会心理学Ⅱ		
	第15回	総合まとめ		
教科書		イラストレート心理学入門		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		社会福祉概論		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		古御堂 正	科目副担当	0
目 標	総合	社会福祉の概要を理解できる		
	行動	<キーワード>社会福祉の魅力と重要性を理解する 社会福祉専門職に期待される役割を理解する現		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション		
	第2回	児童の福祉		
	第3回	貧困・低所得者の福祉		
	第4回	保育分野の福祉		
	第5回	スクールソーシャルワーク		
	第6回	高齢者の福祉		
	第7回	司法現場での福祉		
	第8回	医療ソーシャルワーク		
	第9回	障害者の福祉		
	第10回	精神保健福祉		
	第11回	障がいをもつ学生への支援		
	第12回	地域における福祉実践①－NPO		
	第13回	地域における福祉実践②－社会福祉協議会		
	第14回	地域における福祉実践③－地方自治体		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		実践コミュニケーション	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	梅木 綾乃	科目副担当	0
目 標	総合	社会でのコミュニケーション技術を身につける	
	行動	・社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を磨く努力ができる。・理学療法士を取	
講 義 計 画	第1回	なぜコミュニケーションを学ぶのか	
	第2回	社会で働くために必要な力とは	
	第3回	伝える・伝わるコミュニケーションとは	
	第4回	コミュニケーションのタイプ	
	第5回	コミュニケーションにおける解決と解消	
	第6回	養成校でのコミュニケーション	
	第7回	臨床実習で求められるコミュニケーション	
	第8回	就職活動から入職までに身に付けたいコミュニケーション	
	第9回	人と育てるコミュニケーション	
	第10回	職場でのコミュニケーション	
	第11回	臨床現場でのコミュニケーション	
	第12回	医療安全のためのコミュニケーション	
	第13回	クレーム対応のコミュニケーション	
	第14回	ミーティングのためのコミュニケーション	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・報告会	
履修 アドバイス		0	

科目名		解剖学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	清水 千草	科目副担当	川口 亮
目 標	総合	正常な生体の構造を覚える。	
	行動	1. 人体の構造を示す分類や名称を言える。2. 内臓の名称と所在箇所を説明できる。3. 血管の名称と	
講 義 計 画	第1回	総論	
	第2回	循環器疾患概論	
	第3回	心臓	
	第4回	心臓	
	第5回	心臓 脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃、小腸、大腸、肝臓	
	第10回	肝臓、呼吸器	
	第11回	肺、喉頭、腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器、内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版	
授業方法		一斉講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		解剖学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	泉水 奏	科目副担当	川口 亮
目 標	総合	正常な骨関節の構造が分かる	
	行動	1, 骨の場所・名称が言える 2, 筋肉の起始停止の場所が理解できる 3, 靱帯の起始停止の場所が理解できる	
講 義 計 画	第1回	解剖学総論	
	第2回	脊柱	
	第3回	脊柱	
	第4回	頭蓋	
	第5回	頭蓋	
	第6回	上肢骨	
	第7回	下肢骨	
	第8回	下肢骨	
	第9回	頭蓋の関節 脊柱の関節	
	第10回	上肢の関節	
	第11回	骨学実習	
	第12回	骨学実習	
	第13回	下肢の関節	
	第14回	下腿の関節	
	第15回	まとめ	
教科書		プロメテウス解剖学アトラス	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		解剖学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		高山 千利	科目副担当	0
目 標	総合	正常な生体の筋肉の構造を知る。		
	行動	1. 神経の名称が言える。2. 各神経の部位と構造・機能が説明できる。		
講 義 計 画	第1回	神経解剖ガイダンス 神経組織 1		
	第2回	神経組織 2 再生と変性		
	第3回	脊髄神経		
	第4回	脊髄神経 脳神経		
	第5回	脳神経のみかた		
	第6回	脳の外観		
	第7回	脳の各論 1		
	第8回	脳の各論 2		
	第9回	脳の各論 3		
	第10回	脳神経核 1		
	第11回	脳神経核 2		
	第12回	脳神経核 3 伝導路 1		
	第13回	伝導路 2		
	第14回	髄膜 血管		
	第15回	まとめ		
教科書		病気が見える⑦脳・神経		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		解剖学Ⅳ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		立花 修平	科目副担当	0
目 標	総合	正常な生体の構造を知る。		
	行動	1. 筋の名称が言える。2. 筋の所在箇所が説明できる。3. 各筋が骨のどこから起こり、停止しているか。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション 総論（起始・停止・運動・作用・筋の分類）		
	第2回	総論 2 筋の補助装置、筋の生理的作用について		
	第3回	総論 3（筋による関節運動の種類、筋の収縮種類）		
	第4回	各論 1 上肢帯筋肉について		
	第5回	各論 2 上腕の筋について		
	第6回	各論 3 前腕の筋について		
	第7回	各論 4 手の筋肉について		
	第8回	各論 5 骨盤帯の筋肉について		
	第9回	各論 6 大腿の筋肉について		
	第10回	各論 7 下腿の筋肉について		
	第11回	各論 8 頭頸部の筋肉について		
	第12回	各論 9 胸部・腹部の筋肉について		
	第13回	各論10 背部の筋肉について		
	第14回	まとめ①		
	第15回	まとめ②		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		生理学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	中村 真理子	科目副担当	野口
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	生理学とは ホメオスタシスの重要性	
	第2回	細胞の化学反応 酵素とその機能	
	第3回	核酸とタンパク質の合成 膜変位の細胞興奮	
	第4回	細胞膜の構造 細胞膜の機能	
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス	
	第6回	栄養の消化と吸収	
	第7回	食道 胃の消化作用	
	第8回	小腸 膵液 胆汁	
	第9回	空腸 回腸	
	第10回	膵臓 胆のう機能 肝臓機能	
	第11回	呼吸と血液のはたらき	
	第12回	呼吸のメカニズム	
	第13回	呼吸気量	
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬	
	第15回	まとめ	
教科書		系統看護学講座10版	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		生理学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		中村 真理子	科目副担当	野口
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	呼吸の病態生理		
	第2回	血液の組織・機能		
	第3回	酸素解離曲線		
	第4回	消化と吸収		
	第5回	貧血と赤血球増加症		
	第6回	血小板		
	第7回	血液の凝固		
	第8回	体温調節		
	第9回	体温調節		
	第10回	生体防御		
	第11回	心臓弁の役割		
	第12回	興奮の伝導		
	第13回	心臓の収縮 心周期		
	第14回	心音と心雑音		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座11版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		生理学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		中村 真理子	科目副担当	野口
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	血圧 補助ポンプ 脈波と脈拍		
	第2回	血圧の調節		
	第3回	微小循環と血流		
	第4回	循環器の病態生理		
	第5回	腎臓の機能		
	第6回	ヘレンループ		
	第7回	排尿路 尿の輸送と貯蔵		
	第8回	体液の調節 酸塩基平衡		
	第9回	内臓機能の調節 自律神経系		
	第10回	内分泌と外分泌		
	第11回	内分泌各論		
	第12回	膵臓		
	第13回	内分泌各論		
	第14回	ホルモンの調節		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座12版		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動学Ⅰ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	0
目 標	総合	基礎運動学における身体運動の機構を科学的に分析する知識や物理学に基づく生体力学、運動		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	運動学とは？		
	第2回	力学と身体運動		
	第3回	運動の表わし方		
	第4回	運動の法則		
	第5回	仕事と力学的エネルギー		
	第6回	剛体に働く力		
	第7回	骨の構造と機能		
	第8回	関節の構造と機能		
	第9回	腱の構造と機能		
	第10回	靱帯の構造と機能		
	第11回	骨格筋		
	第12回	神経筋接合部と神経筋伝達		
	第13回	筋収縮のメカニズム		
	第14回	神経系（概要のみ）		
	第15回	総合まとめ		
教科書		基礎運動学第6班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		運天 督	科目副担当	0
目 標	総合	上肢帯、上肢、体幹、下肢を構成する骨、筋、靱帯その他の軟部組織の構造を理解し、人体の		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	顔面、上肢帯と上肢の運動		
	第2回	肩関節		
	第3回	肘関節と前腕の運動		
	第4回	手関節と手の運動		
	第5回	体幹の運動		
	第6回	頸椎・胸椎・胸郭の運動		
	第7回	腰椎の運動		
	第8回	下肢帯と股関節の筋と運動について		
	第9回	膝関節の運動について		
	第10回	足関節の動きについて		
	第11回	足アーチについて		
	第12回	姿勢制御について		
	第13回	歩行と走行①		
	第14回	歩行と走行②		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第7班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	0
目 標	総合	リハビリテーション専門職として「下肢の運動」について理解し、特に「姿勢」「歩行」「走		
	行動	理学療法の対象となる体の動きについて、運動学の用語を用いて説明できるようになる人の動きを「姿		
講 義 計 画	第1回	総論 運動学に必要な基本的な知識の整理		
	第2回	下肢帯と下肢の運動Ⅰ 股関節①		
	第3回	股関節②		
	第4回	下肢帯と下肢の運動Ⅱ 膝関節①		
	第5回	膝関節②		
	第6回	下肢帯と下肢の運動Ⅲ 足関節・足部①		
	第7回	足関節・足部②		
	第8回	足関節下肢帯と下肢の運動のまとめ		
	第9回	姿勢 重心とアライメント		
	第10回	姿勢の分類		
	第11回	歩行 歩行周期		
	第12回	歩行分析		
	第13回	走行 走行と歩行の違い		
	第14回	運動学的分析		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第8班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		人間発達学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		渡名喜 愛	科目副担当	0
目 標	総合	1.正常発達を知る。1. 身体の形態発達の過程を理解する。2. 新生児期や乳幼児期の運動と		
	行動	1.正常発達を知ることができる。2.正常姿勢反射を知ることができ、異常な姿勢反射につなげることが		
講 義 計 画	第1回	人間発達とは・運動理論について		
	第2回	運動機能について①（胎生期・新生児期）		
	第3回	運動機能について②（乳児期）		
	第4回	運動機能について（学童期）		
	第5回	運動機能について（青年期～成人期）		
	第6回	運動機能について（高齢期）		
	第7回	運動機能の発達5（青年期～高齢期）		
	第8回	認知機能の発達		
	第9回	情緒の発達		
	第10回	社会性の発達		
	第11回	パーソナリティーの発達		
	第12回	ライフステージにおける機能別発達について①		
	第13回	ライフステージにおける機能別発達過程について②		
	第14回	発達検査とは		
	第15回	まとめ		
教科書		小児理学療法学テキスト		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		病理学総論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉 盛治	科目副担当	0
目 標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。1. 病気の発生機序を説明できる。2. 病気の回復メカニズムを説明できる。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書		資料配布	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		内科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		大山拓真	科目副担当	0
目 標	総合	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について説明できる。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方		
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理		
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT、OTの関連4循環器		
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性		
	第5回	5 呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハ		
	第6回	6 消化管疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連		
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H		
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FF		
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリノーマ 3 脂質異常症		
	第10回	1 0 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2		
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論		
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾		
	第13回	1 3 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識		
	第14回	まとめ		
	第15回	まとめ		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第4版 内科学		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		リハビリテーション関連医学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		伊藤、中村、安田	科目副担当	0
目標	総合	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解する		
	行動	0		
講義計画	第1回	総論① オリエンテーション講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する		
	第2回	理学療法管理学の源流②		
	第3回	病院の分類と組織③		
	第4回	専門職とチームケア④		
	第5回	社会保障のしくみ⑤		
	第6回	医療保険制度⑥		
	第7回	介護保険制度⑦		
	第8回	職業倫理⑧グループワーク		
	第9回	業務管理⑨グループワーク		
	第10回	業務・情報管理⑩		
	第11回	感染症管理⑪		
	第12回	教育管理⑫		
	第13回	リスク管理⑬		
	第14回	リスク管理⑭		
	第15回	総まとめ各自総まとめを整理する		
教科書		リハベーシック 薬理学・臨床薬理学系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやす		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験・小テスト		
履修アドバイス		0		

科目名		整形外科科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安田知子	科目副担当	0
目 標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。	
	行動	運動器疾患である整形外科科学の診断と治療について述べられるようになる。それぞれの疾患の概要から	
講 義 計 画	第1回	整形外科科学総論/整形外科とは、整形外科科学とはなにか	
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断	
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法	
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷	
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靱帯損傷・脱臼	
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節	
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手	
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節	
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節	
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患	
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首	
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症	
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症	
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患	
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科科学と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線	
教科書		整形外科科学テキスト[改訂第4版] 南江堂	
授業方法		一斉講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		神経内科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	当真 祐二	科目副担当	0
目 標	総合	神経内科学の疾患を理解する	
	行動	脳の血管の解剖と整理学的特徴を理解する。脳血管障害の分類と疫学を学ぶ。各種脳血管障害の成因、	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション神経系の構成と発生脳区分と局所徴候	
	第2回	脳血管障害について分類出血部位の頻度治療について	
	第3回	脳出血(各論)被殻出血視床出血	
	第4回	脳出血(各論)皮質下出血橋出血	
	第5回	脳出血について(各論)橋出血②	
	第6回	脳出血について(各論)くも膜下出血について正常圧水頭症について	
	第7回	脳梗塞について脳塞栓症脳血栓症	
	第8回	アテローム血栓性脳梗塞について	
	第9回	ラクナ梗塞について	
	第10回	脳解剖見学実習	
	第11回	心原性脳塞栓症について	
	第12回	画像所見	
	第13回	脳解剖見学実習	
	第14回	CT・MRI画像診断	
	第15回	まとめ	
教科書		神経内科学テキスト[改訂第4版] 南江堂	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・課題	
履修 アドバイス		0	

科目名		精神医学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	OT教員	科目副担当	0
目 標	総合	精神医学の概要を理解する	
	行動	精神症状について理解する精神医療を理解する疾患について理解する	
講 義 計 画	第1回	総論	
	第2回	精神機能とその異常	
	第3回	精神医療と社会	
	第4回	統合失調症	
	第5回	認知症	
	第6回	てんかん	
	第7回	精神医学的診察と診断	
	第8回	症状精神病	
	第9回	発達障害	
	第10回	物質関連商連	
	第11回	気分障害	
	第12回	精神症性障害	
	第13回	脳科学と精神医学	
	第14回	パーソナリティ障害	
	第15回	精神的治療学	
教科書		標準精神医学 第8班	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		小児科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		知花 愛里	科目副担当	0
目 標	総合	1. 主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。2. 小児疾患全般を理解し、リハビリテーションを行う。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	発達について		
	第2回	新生児について		
	第3回	3-4カ月の発達		
	第4回	6-7カ月の発達		
	第5回	8-12カ月の発達		
	第6回	神経発達症について		
	第7回	1才の発達について		
	第8回	2才の発達について。発達のまとめ		
	第9回	3才の発達について		
	第10回	4才の発達について		
	第11回	5才の発達について		
	第12回	7-11才の発達について		
	第13回	11-14才の発達について		
	第14回	14-17才の発達について		
	第15回	期末試験		
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		リハビリテーション概論Ⅰ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		渡名喜 愛	科目副担当	0
目 標	総合	医療以外の範囲も含めたリハビリテーションの概念、歴史、世界・日本での発展から現在の状況		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション概論① オリエンテーション 講義の流れ、総論（概念・理念・		
	第2回	リハビリテーション概論② 健康と障害の概念と分類資料参照		
	第3回	リハビリテーション概論③ 障害の心理的・社会的視点資料参照		
	第4回	リハビリテーション概論④ ヒトの発達と評価（特に小児）資料参照		
	第5回	リハビリテーション概論⑤ リハビリテーション過程資料参照		
	第6回	リハビリテーション概論⑥ リハビリテーションの諸段階資料参照		
	第7回	リハビリテーション概論⑦ 医療とリハビリテーション専門職種と役割資料参照		
	第8回	リハビリテーション概論⑧ チームアプローチ資料参照		
	第9回	リハビリテーション概論⑨ ADL,QOLの概念と評価法資料参照		
	第10回	リハビリテーション概論⑩ 医療・リハビリテーション医療（医療機関で行うリハビ		
	第11回	リハビリテーション概論⑪ 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア資料参照		
	第12回	リハビリテーション概論⑫ 高齢者・健康対策と少子化対策資料参照		
	第13回	リハビリテーション概論⑬ 医療・福祉制度資料参照		
	第14回	リハビリテーション概論⑭ 医療法・福祉関係法規資料参照		
	第15回	総まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験・グループワーク		
履修 アドバイス		0		

科目名		リハビリテーション概論Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊 富士雄	科目副担当	0
目 標	総合	地域理学療法について理解できる	
	行動	1、地域の環境を理解する 2、医療・介護の制度を理解する 3、地域包括ケアを理解する	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーションの概念	
	第2回	健康と障がいの概念	
	第3回	障がいの心理的社会的概念	
	第4回	ヒトの発達と評価	
	第5回	リハビリテーション過程	
	第6回	リハビリテーションの諸段階	
	第7回	医療とリハビリテーション専門職と役割	
	第8回	チームアプローチ	
	第9回	ADL.QOLの概念	
	第10回	医療と義肢装具	
	第11回	地域リハビリテーション	
	第12回	高齢者と少子化	
	第13回	医療・福祉制度	
	第14回	関連法規	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・グループワーク	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	梅木 綾乃	科目副担当	仲間/玉城
目 標	総合	理学療法概念を理解する	
	行動	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解し、理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得する。	
講 義 計 画	第1回	理学療法概念と歴史	
	第2回	理学療法士の法律	
	第3回	理学療法士の関連法規	
	第4回	理学療法の意義と役割	
	第5回	理学療法の対象	
	第6回	理学療法の方法	
	第7回	運動療法・物理療法	
	第8回	理学療法士の組織	
	第9回	理学療法士教育	
	第10回	医療・保健分野の理学療法	
	第11回	地域リハビリテーションと理学療法	
	第12回	医療事故とリスクマネジメント	
	第13回	個人情報の管理と対象の権利	
	第14回	臨床教育の実践	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評価方法		期末試験・グループワーク	
履修 アドバイス		0	

科目名		臨床運動学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	0
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】基礎バイオメカニクスを学び、人の正常動作メカニズムを説明できる		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	バイオメカニクスの基本事項 1) 重心の考え方 2) 加速度と力の関係 3) 床反力とは		
	第2回	バイオメカニクスの基本事項 1) 床反力鉛直方向成分立ち上がり動作とは		
	第3回	バイオメカニクスの基本事項 1)		
	第4回	立位と歩き始め		
	第5回	立位と歩き始め実技：麻痺側の歩行の介助と訓練		
	第6回	歩行：一般的な歩行		
	第7回	歩行：歩行中の重心と支持基底面		
	第8回	歩行：歩行中の床反力		
	第9回	動作を可能にするメカニズム 3つのロッカー機能・ヒールロッカー・アングルロッカー		
	第10回	衝撃吸収のメカニズム		
	第11回	歩行中の関節モーメント		
	第12回	代表的な異常歩行		
	第13回	姿勢と動作		
	第14回	変形性膝関節症の機能評価		
	第15回	まとめ		
教科書		観察による歩行分析		
授業方法		講義、実技、グループワークなど		
評価方法		講義、出席、定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊 富士雄	科目副担当	0
目 標	総合	運動療法の中の各種運動の理論を学び、基本的な運動療法の実技を習得する。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	運動療法の概念(定義、目的、対象、原理)教科書概観レポート発表振り分け	
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法①可動域制限因子・治療のためのアプローチ・スタ	
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法②動的ストレッチ、PNFストレッチ、IDストレッチ	
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法③関節モビライゼーション(滑り、転がり、構成運	
	第5回	筋力低下に対する運動療法①筋張力に影響する因子、筋力トレーニングの原則<レポ	
	第6回	筋力低下に対する運動療法②トレーニングの分類、進め方OKC・CKC<レポート発表	
	第7回	持久力低下に対する運動療法①定義・エネルギー供給システム・持久力トレーニング	
	第8回	筋持久力低下に対する運動療法②至適運動強度・効果<レポート発表>パーキンソン	
	第9回	バランス障害に対する運動療法分類・捉え方・評価のポイント・理論・実際<レポ	
	第10回	協調性運動障害に対する運動療法①運動の発現・協調性運動障害の分類・運動失調の	
	第11回	協調性運動障害に対する運動療法②代表的な運動療法<レポート発表>サルコイドー	
	第12回	姿勢障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際<レポート発表>小児	
	第13回	歩行障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際ビデオによる動作観察	
	第14回	歩行障害に対する運動療法ビデオによる動作観察	
	第15回	まとめ	
教科書		運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明編	
授業方法		教科書の内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディや演習などを通して学習す	
評価方法		本講義の記述試験(90%)レポート発表(10%)の割合で総合的に評価を行う。	
履修 アドバイス		0	

科目名		運動療法学Ⅱ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		玉城大勸	科目副担当	0
目 標	総合	整形外科分野の疾患に対する評価及び運動療法について学ぶ。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	運動療法学Ⅱ 概論ロコモティブシンドロームロコモテスト		
	第2回	骨折 評価と運動療法（1）運動器リハビリテーション施設基準と診療報酬		
	第3回	骨折 評価と運動療法（2）RICE処置 ギブス固定		
	第4回	腰部 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症）		
	第5回	腰部 評価と運動療法（2） 整形外科的検査(腰痛症) 表書き込み骨折 評価と運動療法		
	第6回	胸郭出口症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）		
	第7回	頸肩腕症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）表書き込み整形外科的検査		
	第8回	股関節 評価と運動療法（1）整形外科的検査（頸肩腕症候群）表書き込み整形外科的検査		
	第9回	股関節 評価と運動療法（2）整形外科的検査(股関節) 表書き込み		
	第10回	膝関節疾患 評価と運動療法（1）整形外科的検査(膝関節)		
	第11回	膝関節疾患 評価と運動療法（2）整形外科的検査(膝関節) 表書き込み		
	第12回	RA 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群）		
	第13回	RA 評価と運動療法（2）RA体操		
	第14回	スポーツ外傷運動療法の原理・指導法と禁忌運動器疾患の理学療法テクニック（DV）		
	第15回	総まとめ		
教科書		理学療法評価学		
授業方法		講義、実技		
評価方法		筆記試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	大山将平	科目副担当	0
目 標	総合	内部障害に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	循環器(内科系) 理学療法	
	第3回	循環器(外科系) 理学療法	
	第4回	末梢循環障害理学療法	
	第5回	腎機能障害の理学療法	
	第6回	呼吸器障害の理学療法①	
	第7回	呼吸器障害の理学療法②	
	第8回	呼吸器障害の理学療法③	
	第9回	ICUの理学療法/吸引	
	第10回	糖尿病の理学療法①	
	第11回	糖尿病の理学療法②	
	第12回	がんの理学療法①	
	第13回	がんの理学療法②	
	第14回	BLS/患者教育	
	第15回	まとめテスト	
教科書		資料配布	
授業方法		講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		運動療法学Ⅳ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		梅木 綾乃	科目副担当	0
目 標	総合	理学療法の対象として、中神経系疾患であり、整形外科疾患でもある脊髄損傷の障害を理解する。		
	行動	急性期から維持期（生活適応期）に至るまでの脊髄損傷の主な障害について述べられるようになる自立		
講 義 計 画	第1回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第2回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第3回	疫学調査 受傷機転と転帰		
	第4回	評価① 急性期の評価 IsCos Zancolli		
	第5回	評価② 不全損傷の分類評価		
	第6回	呼吸機能障害		
	第7回	自律神経障害		
	第8回	膀胱直腸障害		
	第9回	評価③ 症例検討		
	第10回	脊髄損傷者の動作学 起居動作から運動学を学ぶ リスク管理 褥瘡とバランス機能		
	第11回	ADL（1） ADL評価：SCIM		
	第12回	ADL（2） 脊髄損傷者の実際		
	第13回	ADL（3）		
	第14回	性機能障害		
	第15回	まとめ		
教科書		岩崎 洋編：脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版、東京、文光堂、2014年		
授業方法		講義、実技		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動療法学Ⅴ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小野泰輔	科目副担当	0
目 標	総合	・正常発達の理解・脳性麻痺の理学療法評価・脳性麻痺の理学療法	
	行動	脳性まひの分類を理解し、全体像を捉えることができる。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション小児理学療法の概要療育業政サービス教育	
	第2回	正常運動発達0～3カ月	
	第3回	正常運動発達4～6カ月7～9カ月	
	第4回	正常運動発達10～12カ月発達検査ダウン症	
	第5回	子どもの遺伝性疾患DMD児、年齢に応じた理学療法介入その他の遺伝性疾患	
	第6回	子どもの整形外科疾患二分脊椎ヘルテス骨形成不全	
	第7回	脳性麻痺 総論	
	第8回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第9回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第10回	ケーススタディ	
	第11回	主要問題(両まひケーススタディ) から理学療法を考える	
	第12回	脳性麻痺アテトーゼ型	
	第13回	重症心身障害児(者)	
	第14回	発達障害	
	第15回	期末試験	
教科書		小児理学療法学テキスト	
授業方法		講義、実技	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		運動療法学Ⅵ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		当真祐二	科目副担当	0
目 標	総合	脳血管障害の全体像を捉え問題点を抽出し、それに対する運動療法を考案できるようになる。		
	行動	障害に対して検査項目を挙げ、実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション講義目標・方法、評価方法、講義内容説明		
	第2回	脳血管障害の概論・症例検討Ⅰ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）		
	第3回	症例検討Ⅰ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙		
	第4回	症例検討Ⅰ 動画(動作観察、起き上がり・立ち上がり動作評価、問題点の抽出)		
	第5回	症例検討Ⅰ 問題点の抽出、運動療法の考え方		
	第6回	症例検討Ⅱ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）		
	第7回	症例検討Ⅱ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙		
	第8回	症例検討Ⅱ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)		
	第9回	症例検討Ⅱ 問題点の抽出、運動療法の考え方		
	第10回	症例検討Ⅲ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）		
	第11回	症例検討Ⅲ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙		
	第12回	症例検討Ⅲ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)		
	第13回	症例検討Ⅲ 問題点の抽出、運動療法の考え方		
	第14回	まとめ① 脳卒中のリハビリテーション 発表		
	第15回	まとめ② 脳卒中のリハビリテーション 発表		
教科書		千住秀明 監：理学療法学テキストⅣ 中枢神経疾患の理学療法 第2版		
授業方法		講義、グループワーク中心に実施		
評定方法		小テスト、グループ発表、試験		
履修 アドバイス		0		

科目名		リハビリテーションセミナーⅠ	
履修時期	1年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。	
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。	
講 義 計 画	第1回	国家試験の問題形式を理解する	
	第2回	問題用紙を教科書を用いて解答を行う	
	第3回	国家試験の問題形式を理解する	
	第4回	解答解説をグループで実施する	
	第5回	国家試験の問題形式を理解する	
	第6回	解答解説を個人で実施する	
	第7回	解答解説をグループで実施する	
	第8回	解答解説を報告する	
	第9回	国家試験の問題形式を理解する	
	第10回	解答解説を個人で実施する	
	第11回	解答解説をグループで実施する	
	第12回	解答解説を報告する	
	第13回	配布問題集の説明をグループ内で実施する	
	第14回	配布問題集の解答解説を実施する	
	第15回	総まとめ	
教科書		資料配布	
授業方法		講義、グループワーク	
評定方法		小テスト、グループ発表、試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		リハビリテーションセミナーⅡ		
履修時期		2年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	0
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。		
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。		
講 義 計 画	第1回	国試対策 末梢神経		
	第2回	末梢神経 解答・解説 グループワークで行う		
	第3回	国試対策 中枢神経		
	第4回	中枢神経 解答・解説をグループにて行う		
	第5回	国試対策 反射・筋活動・感覚		
	第6回	反射・筋活動・感覚 解答と解説をグループワークにて行う		
	第7回	国試対策 呼吸		
	第8回	呼吸 解答・解説をグループワークにて行う		
	第9回	国試対策 循環		
	第10回	循環 解答・解説をグループワークにて行う		
	第11回	国試対策 消化器		
	第12回	消化器系 解答・解説をグループワークにて行う		
	第13回	国試対策 排尿		
	第14回	排尿 解答・解説をグループワークにて行う		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎固めヒント式トレーニング 南江堂		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス		0		

科目名		リハビリテーションセミナーⅢ		
履修時期		3年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	0
目 標	総合	基礎医学・臨床医学を理解する		
	行動	理学療法概論・技術論の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	国試対策		
	第2回	国試対策		
	第3回	国試対策		
	第4回	国試対策		
	第5回	国試対策		
	第6回	国試対策		
	第7回	国試対策		
	第8回	国試対策		
	第9回	国試対策		
	第10回	国試対策		
	第11回	国試対策		
	第12回	国試対策		
	第13回	国試対策		
	第14回	国試対策		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス		0		

科目名		理学療法管理学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	池城正浩	科目副担当	0
目 標	総合	リハビリテーション科を専門とする職場の管理、組織化、業務管理、教育について知る。	
	行動	「知識・技術」とともに「柔軟な思考」と「豊かな発想」、そしてそれらを効果的に操る「マネイジメ	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション科における管理とは	
	第2回	自らが成長しうることへの支援とは	
	第3回	職員配置と業務の組織化	
	第4回	質的管理のための体制づくり	
	第5回	病棟・施設業務管理	
	第6回	部署内の情報伝達の工夫	
	第7回	院内活動への参加	
	第8回	年間計画に基づく個人目標の管理	
	第9回	リハビリテーション専門職のインセンティブ	
	第10回	リハビリテーション専門職のストレスチェック	
	第11回	医療専門職の継続教育	
	第12回	リーダーシップとマネイジメント	
	第13回	リハビリテーション科のリーダーとは	
	第14回	リハビリテーション科の効果的な収益管理	
	第15回	まとめ	
教科書		リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社	
授業方法		講義、グループワーク、調べ学習	
評定方法		講義・グループワーク・調べ学習・期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法評価学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡名喜愛	科目副担当	仲間 成龍
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技を	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講 義 計 画	第1回	総論形態測定	
	第2回	関節可動域測定	
	第3回	肩関節	
	第4回	肘	
	第5回	手関節	
	第6回	股関節	
	第7回	膝関節	
	第8回	足部	
	第9回	肩甲骨	
	第10回	体幹	
	第11回	頸部	
	第12回	周径	
	第13回	症例検討	
	第14回	実技確認	
	第15回	まとめ	
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社	
授業方法		講義・実技・グループワークなど	
評定方法		期末試験・実技試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法評価学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	梅木綾乃	科目副担当	立花・玉城
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技の	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講義計画	第1回	総論・筋力測定	
	第2回	肩甲帯	
	第3回	肩関節	
	第4回	肘	
	第5回	手関節	
	第6回	股関節	
	第7回	膝関節	
	第8回	足部	
	第9回	肩甲骨	
	第10回	体幹	
	第11回	頸部	
	第12回	周径	
	第13回	症例検討	
	第14回	実技確認	
	第15回	まとめ	
教科書		新・徒手筋力検査法	
授業方法		講義・実技・グループワークなど	
評定方法		期末試験・実技試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法評価学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	玉城大勸	科目副担当	0
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技が	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講義計画	第1回	理学療法評価学Ⅲ ①オリエンテーション 問診講義の流れ、総論、検査の目的・意	
	第2回	理学療法評価学Ⅲ② 疼痛検査の意義・目的・方法を実践出来る資料参照	
	第3回	理学療法評価学Ⅲ③ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第4回	理学療法評価学Ⅲ④ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第5回	理学療法評価学Ⅲ⑤ 知覚検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第6回	理学療法評価学Ⅲ⑥ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第7回	理学療法評価学Ⅲ⑦ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第8回	理学療法評価学Ⅲ⑧ 片麻痺検査の意義・方法を実践出来る資料参照	
	第9回	理学療法評価学Ⅲ⑨ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第10回	理学療法評価学Ⅲ⑩ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第11回	理学療法評価学Ⅲ⑪ SIASの意義・方法を実践出来る資料参照	
	第12回	理学療法評価学Ⅲ⑫ SIASの検査を実践出来る資料参照	
	第13回	理学療法評価学Ⅲ⑬ BBS、TUG、10m歩行速度の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第14回	理学療法評価学Ⅲ⑭ 症例に則した評価法の選択(ケーススタディ) 資料参照	
	第15回	総まとめ実技確認 感覚・協調性・片麻痺機能検査の実施が出来る各自まとめを整理	
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社	
授業方法		自主学習を主体として講義を進行する	
評価方法		実技及び定期試験、小テストなど	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法評価学Ⅳ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	仲間 成龍	科目副担当	0
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明出来るようになる。又、検査手技を	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講 義 計 画	第1回	各論① 深部腱反射・病的反射	
	第2回	各論② 深部腱反射・病的反射	
	第3回	各論③ 深部腱反射・病的反射	
	第4回	各論④ 筋トーヌス反射	
	第5回	各論⑤ 筋トーヌス反射	
	第6回	各論⑥ 姿勢反射検査	
	第7回	各論⑦ 姿勢反射検査	
	第8回	各論⑧ 姿勢反射検査	
	第9回	各論⑨ 脳神経検査	
	第10回	各論⑩ 脳神経検査	
	第11回	各論⑪ 高次脳機能検査	
	第12回	各論⑫ 高次脳機能検査	
	第13回	各論⑬ 高次脳機能検査	
	第14回	全体のまとめ①確認テストなど	
	第15回	全体のまとめ②確認テストのフィードバック	
教科書		松澤正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社医療情報科学研	
授業方法		講義・実技・グループワークなど	
評価方法		定期的に行われる単元テスト及び確認テスト、出席点や学習課題を総合的に評価する	
履修 アドバイス		0	

科目名		物理療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	立花 修平	科目副担当	0
目標	総合	安全、効果的に物理療法を実施することができる	
	行動	1. 理学療法分野における位置づけ、意義等を理解する。2. 生理学的背景を併せて理解し、適応・禁	
講義計画	第1回	オリエンテーション、総論①	
	第2回	温熱療法について①	
	第3回	温熱療法について②	
	第4回	寒冷療法について①	
	第5回	牽引療法について	
	第6回	電気療法について①	
	第7回	電気療法について②	
	第8回	光線療法について①	
	第9回	光線療法について②	
	第10回	水治療について	
	第11回	水治療について	
	第12回	演習(ケーススタディー)	
	第13回	演習(ケーススタディー)	
	第14回	演習(ケーススタディー)	
	第15回	まとめ	
教科書		資料配布	
授業方法		講義、実技演習、グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		日常生活技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	運天 督	科目副担当	0
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】ADLの概念、内容、基本的な評価について説明することができ、付	
	行動	行動目標(SBO)】ADLについての基礎的な知識や動作分析のポイント、必要な評価方法について学習	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション シラバス説明第1回講義 ライフステージ(自身を俯瞰しながら	
	第2回	ADLと障害・障害分類(身体障害者福祉法、介護保険制度)とICIDH、ICF・平均寿	
	第3回	ICFとQOL・障害構造:医学モデル、障害モデル、国際生活機能分類・QOLの構造	
	第4回	ADLと運動学・運動の記録と解析(相分けと静動部位の記録)の実施(グループ毎に	
	第5回	ADLと運動学2・前回で確認した内容をグループ別に発表(グループ毎に課題選択し	
	第6回	ADL評価・評価における日常生活動作の概念より【概念】・人間の行動の3側面から	
	第7回	(症例検討)片麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足してい	
	第8回	(症例検討)脊髄損傷のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して	
	第9回	(症例検討)脳性麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して	
	第10回	(症例検討)慢性関節リウマチのADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(	
	第11回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL・初期症例情報をICF上に並べる・	
	第12回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL2・初期症例情報をICF上に並べる	
	第13回	まとめ1・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク	
	第14回	まとめ2・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク	
	第15回	まとめ3期末テスト・基礎知識確認・症例選択問題	
教科書		標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院ケース	
授業方法		グループに別れて、お題に対して話し合いながら共通語を作っていきましょう	
評定方法		学期末テストを実施。	
履修 アドバイス		0	

科目名		理学療法技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	小林/外間	科目副担当	0
目 標	総合	PNFの基本理念、原則を理解する。理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、	
	行動	理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、その基本を習得する。	
講 義 計 画	第1回	・マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第2回	・マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第3回	・膝関節の構造・膝関節のmobilization	
	第4回	・足関節の構造・足関節・脛腓関節のmobilization	
	第5回	・肩関節の構造・肩関節のmobilization	
	第6回	・肘関節の構造・肘関節のmobilization	
	第7回	PNF哲学、基本原理	
	第8回	PNF肩甲骨のパターンRI、Rep、SR、RS、（座位）	
	第9回	PNF・哲学基本原理の復習・骨盤・上肢	
	第10回	・下肢・両上・下肢・カイザー体験記	
	第11回	PNF・上肢パターン・座位でのトレーニング	
	第12回	PNF・下肢のパターン・リラクゼーションテクニック（HR・CR）・Pappy	
	第13回	PNF・座位ー立ち上がり・四つ這いー膝立ち・起き上がり	
	第14回	PNF・床からの立ち上がり・歩行・まとめ	
	第15回	mobilizationまとめPNFまとめ	
教科書		理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ	
授業方法		実技を中心に実施	
評定方法		課題及び期末試験、受講状況を加味して総合的に判断する。	
履修 アドバイス		0	

科目名		神経障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必修区分	必修
科目主担当		当真祐二	科目副担当	0
目 標	総合	神経障害の理解とそのリハビリテーションを理解する。		
	行動	神経障害に対して、適切な評価、治療ができるようになる。		
講 義 計 画	第1回	神経系の機能と構造・定義を理解する。		
	第2回	理学療法への介入方法・アプローチを理解する。		
	第3回	PD症状を理解する。		
	第4回	PDの理論と実際のリハビリテーションを理解する。		
	第5回	PD症例検討・グループワークにてPDの症状を体感する。		
	第6回	ギランバレー症候群の症状とリハビリテーションを理解する。		
	第7回	SCDの症状を理解する。		
	第8回	SCDの理論と実際を理解する。		
	第9回	SCDの症例検討、SCDのタイプ別リハをグループ別に発表する。		
	第10回	多発性硬化症の症状とリハビリテーションを理解する。		
	第11回	ALSの症状を理解する		
	第12回	ALSの理論と実際を理解する		
	第13回	ALSの症例検討、またタイプ別リハをグループ別に発表する		
	第14回	進行性筋ジストロフィーの症状をリハビリテーションを理解する。		
	第15回	まとめ		
教科書		①神経障害理学療法学 第1版 羊土社 ③病気がみえる 第2版 メディック		
授業方法		講義、課題、グループワーク、実技		
評価方法		期末試験（課題及び実技配点各10）		
履修 アドバイス		0		

科目名		運動器障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	玉城大勸	科目副担当	0
目標	総合	・運動器疾患に対する疾患別の理学療法を理解する。・各疾患に応じた機能解剖、原因、特徴	
	行動	0	
講義計画	第1回	リモート講義総論構築学的アプローチについて凹凸の法則についてICFの考え方	
	第2回	リモート講義前回のおさらい筋肉痛について骨腱接合部 エンテシス関節軟骨末梢	
	第3回	リモート講義前回のおさらい末梢神経急性末梢神経損傷について皮膚機能骨折・脱臼	
	第4回	リモート講義前回のおさらい臨床でよく診る骨折⑤～大腿骨骨折分類術式からプロト	
	第5回	対面講義臨床でよく診る骨折 足部・脊椎圧迫骨折介達牽引・直達牽引骨粗鬆症につ	
	第6回	対面講義上肢(帯)の骨折発生の機序と症状鎖骨骨折ニア分類・ロビンソン分類等外	
	第7回	対面講義前回のおさらい上腕骨近位骨折その他骨折について分類・術式・リハについ	
	第8回	対面講義股関節疾患の整形外科的テスト紹介・実技脱臼しやすい運動(前方・後方)	
	第9回	7階実技変形性膝関節症について 序章膝蓋骨・膝関節モビライゼーション実技次回	
	第10回	7階実技実技 SLR パトリックオーベルテスト骨盤と膝関節の連鎖膝関節の三次元	
	第11回	7階実技前回の復習膝の内外反ストレステスト 実技TKA・Q角について肩関節障害	
	第12回	7階実技肩関節周囲炎について肩甲胸郭関節モビライゼーション 実技リハビリアプロ	
	第13回	7階実技椎間板原性疼痛非特異的腰痛症腰部脊柱管狭窄症姿勢評価・各種検査項目	
	第14回	特別講演 石塚 光太郎先生(浦添総合病院救急救命センター・整形外科・スポーツ	
	第15回	7階実技変形性股関節症足部疾患についてインソールについて 一部実技まとめ	
教科書		病気が見える⑪運動器・整形外科	
授業方法		講義、実技、グループ学習	
評価方法		期末試験4割、課題レポート3割、出欠席・授業態度(3割)	
履修 アドバイス		0	

科目名		呼吸・循環器障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	山城 範洋	科目副担当	0
目標	総合	呼吸・循環系の対する運動療法の基本原理と実際について理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸リハビリテーション総論	
	第2回	呼吸器疾患の病態	
	第3回	呼吸リハビリテーション評価	
	第4回	酸素療法、薬物治療、呼吸機器 1	
	第5回	酸素療法、薬物療法、呼吸機器 2	
	第6回	周術期の理学療法学	
	第7回	呼吸リハビリテーション維持期	
	第8回	超急性期のリハビリテーション	
	第9回	心臓リハビリテーション総論	
	第10回	循環器の解剖・生理 1	
	第11回	循環器の解剖、生理、病態	
	第12回	心電図、不整脈について	
	第13回	リスク管理について	
	第14回	テスト対策	
	第15回	期末試験	
教科書		呼吸リハビリテーションの理論と技術	
授業方法		講義、実技、グループ学習	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		義肢装具学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 判	科目副担当	0
目 標	総合	装具、義肢（義足・義手）の目的や分類、各部品の名称や働きの理解、分類や構造など基本事項	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	義肢学総論 切断者のリハビリテーション●切断の定義・原因・部位・切断術的処理	
	第2回	切断者の評価義肢基本事項●断端長、断端周径、筋力●義肢装着前後訓練●リハビリ	
	第3回	義肢パーツ基本事項①(足部、義足ソケット)●通常歩行と義足歩行の足部の動きの違い	
	第4回	義肢パーツの基本事項②(膝継手)大腿義足の基本事項①●膝継手(立脚制御機能、遊脚	
	第5回	大腿義足の基本事項②(アライメント)下腿義足の基本事項①●大腿義足の歩行の特徴	
	第6回	下腿義足の基本事項②(アライメント)膝義足、サイム義足の基本事項●下腿義足のベ	
	第7回	股義足の基本事項●股義足対象の切断●股義足の歩行の特徴●股義足のチェックアウ	
	第8回	足部切断用義足、義手●足部切断用義足の種類、機能●義手の種類と使用部位	
	第9回	装具総論●義肢と装具の違い●装具の分類(長さによる分類、アメリカ機能分類など)	
	第10回	下肢装具①(装具の効果とアライメント)金属支柱付き下肢装具の基本事項●矢状面か	
	第11回	下肢装具②(装具の効果とアライメント)プラスチック短下肢装具の基本事項、特殊装	
	第12回	大腿装具(頸椎装具、頸胸椎装具)の基本事項●体幹装具の基本構造(バンド、支柱の材	
	第13回	体幹装具(胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具)の基本事項側弯症用装具の基本事項	
	第14回	側弯症用の装具の基本事項②●側弯症の評価(ベンディング(前屈)テスト、コブ角)●	
	第15回	上肢装具の基本事項スポーツ障害の基本事項●上肢装具の使用目的の分類●上肢装具	
教科書		PT・OTビジュアルテキスト	
授業方法		講義、実技、グループ学習	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		基礎理学療法学 I	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	解剖学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	解剖学総論	
	第2回	解剖学骨	
	第3回	解剖学靱帯	
	第4回	解剖学筋肉	
	第5回	循環器	
	第6回	呼吸器	
	第7回	消化器	
	第8回	泌尿器	
	第9回	生殖器	
	第10回	感覚器	
	第11回	中枢神経	
	第12回	末梢神経	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		基礎理学療法学Ⅱ	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	0
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	生理学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	生理学総論	
	第2回	循環器	
	第3回	呼吸器	
	第4回	消化器	
	第5回	泌尿器生殖器	
	第6回	血液	
	第7回	ホルモン	
	第8回	体温調節	
	第9回	生体防御	
	第10回	末梢神経の機能	
	第11回	中枢神経の機能	
	第12回	神経伝達	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		基礎理学療法学Ⅲ	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	運動学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	運動学総論	
	第2回	上肢下肢運動方向	
	第3回	筋の起始停止	
	第4回	運動力学	
	第5回	仕事とエネルギー	
	第6回	運動の中樞神経機構	
	第7回	動作分析	
	第8回	姿勢	
	第9回	歩行と走行	
	第10回	運動発達	
	第11回	学習と記憶	
	第12回	運動学習の諸理論	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		専門理学療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する疾患の理解ができる	
講義計画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		専門理学療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	0
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する疾患の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		専門理学療法学Ⅱ	
履修時期		3年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	0
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する評価の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

科目名		専門理学療法学Ⅲ	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	0
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する治療の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス		0	

■授業科目	地域理学療法学Ⅰ
-------	----------

履修時期	理学療法学科 昼間主 2年	責任担当教員	運天督
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	【一般教育目標(GIO)】介護保険サービスを中心とする地域リハビリテーションにおいて、医療技術者である理学療法士が、医療モデルと生活モデルの2つのアプローチにより対象者の復権に関わっていく流れを理解する。 【行動目標(SBO)】急性期から維持期(生活適応期)に至るまでの理学療法士のアプローチについて、関連する法・制度や各種サービスについて学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学 概論 [地域理学療法概念] ② 地域理学療法を支えるシステム [福祉関連法的諸制度、障害者の定義] ③ 地域理学療法を支えるシステム [障害者福祉の実施体制、社会資源] ④ 地域理学療法を支えるシステム [介護保険制度] ⑤ 介護保険制度 [要介護認定ケーススタディ] ⑥ 地域理学療法の展開 [生活者としての対象者、ニーズの把握] ⑦ 地域理学療法の展開 [介護保険サービスとその評価] ⑧ 介護保険サービス [ケアプラン、症例検討] ⑨ 地域理学療法の展開 [入所サービスの展開] ⑩ 地域理学療法の展開 [通所サービスの展開] ⑪ 地域理学療法の展開 [訪問における理学療法の展開] ⑫ 地域理学療法の展開 [介護予防の展開] ⑬ 介護予防運動プログラムの実践 [運動プログラム(個別・集団)の実技演習] ⑭ 地域理学療法分野の国家試験対策 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	国家試験に幅広く出題されるだけでなく、実務で必要となる内容が多く含まれていま		
担当教員(分担者)			

■授業科目	地域理学療法学Ⅱ
-------	----------

履修時期	理学療学科 昼間主 3年	責任担当教員	渡邊富士雄
単位	2単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	実習Ⅴ(地域実習)を迎えるにあたり、在宅における疾患別の理学療法評価や訓練方法、リスク管理等の特徴について学習する。また、医療・介護現場で必要とされるカンファレンス等の会議への参加、各種帳票類についての記入方法など具体的な業務について学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学Ⅱの概要 ② 生活環境の整備 住宅改修(解説) ③ 生活環境の整備 住宅改修(ケーススタディ) ④ 生活環境の整備 福祉用具(解説) ⑤ 生活環境の整備 シーティング(解説) ⑥ 生活環境の整備 シーティング(実例紹介) ⑦ 地域理学療法のリスクマネジメント ⑧ 地域理学療法の実際 健康状態の評価 ⑨ 地域理学療法の実際 居宅高齢者の体力増進とリスク管理 ⑩ 地域理学療法の実際 脳血管障害 ⑪ 地域理学療法の実際 骨折 ⑫ 地域理学療法の実際 慢性呼吸不全 神経変性疾患 脊髄損傷 ⑬ 地域理学療法の実際 脊髄損傷 成人脳性麻痺 ⑭ 地域理学療法の実際 認知症 終末期における理学療法 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	実際の対象者との関わりをイメージしながら取り組んでください。		
担当教員(分担者)			

2023 理学療法学科 那覇校夜間主シラバス

科目名		文学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		山城 初子	科目副担当	
目 標	総合	自分の言いたいことが相手に伝わるように、口頭や文章で表現できる。		
	行動	1. 疑問に思ったことを調べたり、尋ねたりできる。2. 日本語の敬意の表し方を知る。3. 沖縄の文		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション		
	第2回	コラムの書写		
	第3回	身体に関する語句の読みと意味の練習		
	第4回	四字熟語について（1）		
	第5回	四字熟語について（2）比喩表現について		
	第6回	抽象的表現を読み取る		
	第7回	敬語の基本知識について、短歌を味わう		
	第8回	電話の応答について、俳句を味わう		
	第9回	詩の鑑賞		
	第10回	沖縄方言の概説、琉歌に触れる		
	第11回	語句（骨格等、専門分野関係）の練習		
	第12回	DVDを見て感想を書く		
	第13回	1分間スピーチの原稿作成		
	第14回	1分間スピーチ発表		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生物学	
履修時期		1年次	単位/時間数
科目区分		基礎分野	2単位/30時間
科目主担当		宮里 幸利	必修
目 標	総合	生物の基礎を理解する。	
	行動	1. 動物細胞の構造と機能と分裂について説明できる 2. 人の受精卵～胎児までの流れが説明できる 3	
講 義 計 画	第1回	細胞の構造と生命誕生	
	第2回	生命体を構成する物質	
	第3回	遺伝子の構造と機能	
	第4回	生体とエネルギー	
	第5回	光合成と窒素同化	
	第6回	細胞の分裂、情報伝達、ガン化	
	第7回	生命体の授精と成長	
	第8回	確認テスト	
	第9回	多細胞生物の自己維持機構	
	第10回	遺伝のしくみと遺伝病	
	第11回	生物と環境がつくる生態系	
	第12回	生物の進化と多様性	
	第13回	生命科学技術と社会	
	第14回	確認テスト	
	第15回	まとめ	
教科書		生理学・生化学につながるていねいな生物学	
授業方法		一斉講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		情報処理		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		渡邊 富士雄	科目副担当	
目 標	総合	"情報処理技法では、基本的なPC操作について学習をし今後も必要となるスキルアップを身に		
	行動	Wordの操作ができるExcelの操作ができるPowerPointの操作ができるipadの操作ができる		
講 義 計 画	第1回	コンピューターの基本操作		
	第2回	インターネットの利用方法		
	第3回	Word実習（１）：Wordの基本操作		
	第4回	Word実習（２）：表とオブジェクトの利用		
	第5回	Word実習（３）：ビジネス文書の作成		
	第6回	Word実習（４）：ワードアートの利用		
	第7回	Excel実習（１）：Excelの基本操作		
	第8回	Excel実習（２）：関数の利用		
	第9回	Excel実習（３）：グラフの作成		
	第10回	Excel実習（４）：データベースの利用		
	第11回	Excel実習（５）：統計分析		
	第12回	PowerPoint実習（１）：PowerPointの基本操作		
	第13回	PowerPoint実習（２）：スライドショーとアニメーションの利用		
	第14回	PowerPoint実習（３）：スライドの作成		
	第15回	PowerPoint実習（４）：発表演習		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		医学英語	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮城 嗣高	科目副担当	
目標	総合	解剖・運動学で学ぶ筋や骨、また臨床にて必要となる各疾患等の名称を医学英語にて学習し、	
	行動	医療で使用する一般的な単語が理解できる各部位の単語が理解できる各部位の単語を表出できる	
講義計画	第1回	リハビリテーション・職種についての医学英語	
	第2回	姿勢の分類について	
	第3回	身体の面・方向・位置について	
	第4回	身体部位について（骨・関節等）	
	第5回	基本的運動方向について	
	第6回	運動について	
	第7回	筋収縮について	
	第8回	関節可動域等について	
	第9回	福祉用具・リハビリ機器について	
	第10回	病態・疾患について	
	第11回	筋について（1）	
	第12回	筋について（2）	
	第13回	筋について（3）	
	第14回	医療現場で使われる用語・略語	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・小テスト	
履修 アドバイス			

科目名		心理学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	大城 貞則	科目副担当	
目 標	総合	人の心の機能について知る	
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明で	
講 義 計 画	第1回	心理学とは	
	第2回	知覚の心理学Ⅰ	
	第3回	知覚の心理学Ⅱ	
	第4回	記憶の心理学Ⅰ	
	第5回	記憶の心理学Ⅱ	
	第6回	学習の心理学Ⅰ	
	第7回	学習の心理学Ⅱ	
	第8回	発達の心理学Ⅰ	
	第9回	発達の心理学Ⅱ	
	第10回	青年期の心理Ⅰ	
	第11回	青年期の心理Ⅱ	
	第12回	性格の心理学	
	第13回	社会心理学Ⅰ	
	第14回	社会心理学Ⅱ	
	第15回	総合まとめ	
教科書		イラストレート心理学入門	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		社会福祉概論		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		古御堂 正	科目副担当	
目 標	総合	社会福祉の概要を理解できる		
	行動	<キーワード>社会福祉の魅力と重要性を理解する 社会福祉専門職に期待される役割を理解する現		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション		
	第2回	児童の福祉		
	第3回	貧困・低所得者の福祉		
	第4回	保育分野の福祉		
	第5回	スクールソーシャルワーク		
	第6回	高齢者の福祉		
	第7回	司法現場での福祉		
	第8回	医療ソーシャルワーク		
	第9回	障害者の福祉		
	第10回	精神保健福祉		
	第11回	障がいをもつ学生への支援		
	第12回	地域における福祉実践①－NPO		
	第13回	地域における福祉実践②－社会福祉協議会		
	第14回	地域における福祉実践③－地方自治体		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		実践コミュニケーション		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		当真祐二	科目副担当	
目 標	総合	社会でのコミュニケーション技術を身につける		
	行動	・社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を磨く努力ができる。・理学療法士を取		
講 義 計 画	第1回	なぜコミュニケーションを学ぶのか		
	第2回	社会で働くために必要な力とは		
	第3回	伝える・伝わるコミュニケーションとは		
	第4回	コミュニケーションのタイプ		
	第5回	コミュニケーションにおける解決と解消		
	第6回	養成校でのコミュニケーション		
	第7回	臨床実習で求められるコミュニケーション		
	第8回	就職活動から入職までに身に付けたいコミュニケーション		
	第9回	人と育てるコミュニケーション		
	第10回	職場でのコミュニケーション		
	第11回	臨床現場でのコミュニケーション		
	第12回	医療安全のためのコミュニケーション		
	第13回	クレーム対応のコミュニケーション		
	第14回	ミーティングのためのコミュニケーション		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験・報告会		
履修 アドバイス				

科目名		解剖学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	川口 亮	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の構造を覚える。	
	行動	1. 人体の構造を示す分類や名称を言える。2. 内臓の名称と所在箇所を説明できる。3. 血管の名称と	
講 義 計 画	第1回	総論	
	第2回	循環器疾患概論	
	第3回	心臓	
	第4回	心臓	
	第5回	心臓 脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃、小腸、大腸、肝臓	
	第10回	肝臓、呼吸器	
	第11回	肺、喉頭、腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器、内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		解剖学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		川口 亮	科目副担当	
目 標	総合	正常な骨関節の構造が分かる		
	行動	1, 骨の場所・名称が言える 2, 筋肉の起始停止の場所が理解できる 3, 靱帯の起始停止の場所が理解		
講 義 計 画	第1回	解剖学総論		
	第2回	脊柱		
	第3回	脊柱		
	第4回	頭蓋		
	第5回	頭蓋		
	第6回	上肢骨		
	第7回	下肢骨		
	第8回	下肢骨		
	第9回	頭蓋の関節 脊柱の関節		
	第10回	上肢の関節		
	第11回	骨学実習		
	第12回	骨学実習		
	第13回	下肢の関節		
	第14回	下腿の関節		
	第15回	まとめ		
教科書		プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		解剖学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	清水 千草	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の筋肉の構造を知る。	
	行動	1. 神経の名称が言える。2. 各神経の部位と構造・機能が説明できる。	
講 義 計 画	第1回	神経解剖ガイダンス 神経組織 1	
	第2回	神経組織 2 再生と変性	
	第3回	脊髄神経	
	第4回	脊髄神経 脳神経	
	第5回	脳神経のみかた	
	第6回	脳の外観	
	第7回	脳の各論 1	
	第8回	脳の各論 2	
	第9回	脳の各論 3	
	第10回	脳神経核 1	
	第11回	脳神経核 2	
	第12回	脳神経核 3 伝導路 1	
	第13回	伝導路 2	
	第14回	髄膜 血管	
	第15回	まとめ	
教科書		病気が見える⑦脳・神経	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		解剖学Ⅳ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当		立花 修平	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の構造を知る。		
	行動	1. 筋の名称が言える。2. 筋の所在箇所が説明できる。3. 各筋が骨のどこから起こり、停止しているか。		
講義計画	第1回	オリエンテーション 総論（起始・停止・運動・作用・筋の分類）		
	第2回	総論2 筋の補助装置、筋の生理的作用について		
	第3回	総論3（筋による関節運動の種類、筋の収縮種類）		
	第4回	各論1 上肢帯筋肉について		
	第5回	各論2 上腕の筋について		
	第6回	各論3 前腕の筋について		
	第7回	各論4 手の筋肉について		
	第8回	各論5 骨盤帯の筋肉について		
	第9回	各論6 大腿の筋肉について		
	第10回	各論7 下腿の筋肉について		
	第11回	各論8 頭頸部の筋肉について		
	第12回	各論9 胸部・腹部の筋肉について		
	第13回	各論10 背部の筋肉について		
	第14回	まとめ①		
	第15回	まとめ②		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生理学 I		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		中村真理子/野口克彦	科目副担当	
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	生理学とは ホメオスタシスの重要性		
	第2回	細胞の化学反応 酵素とその機能		
	第3回	核酸とタンパク質の合成 膜変位の細胞興奮		
	第4回	細胞膜の構造 細胞膜の機能		
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス		
	第6回	栄養の消化と吸収		
	第7回	食道 胃の消化作用		
	第8回	小腸 膵液 胆汁		
	第9回	空腸 回腸		
	第10回	膵臓 胆のう機能 肝臓機能		
	第11回	呼吸と血液のはたらき		
	第12回	呼吸のメカニズム		
	第13回	呼吸気量		
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座10版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生理学Ⅱ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	中村真理子/野口克彦	科目副担当	
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講義計画	第1回	呼吸の病態生理	
	第2回	血液の組織・機能	
	第3回	酸素解離曲線	
	第4回	消化と吸収	
	第5回	貧血と赤血球増加症	
	第6回	血小板	
	第7回	血液の凝固	
	第8回	体温調節	
	第9回	体温調節	
	第10回	生体防御	
	第11回	心臓弁の役割	
	第12回	興奮の伝導	
	第13回	心臓の収縮 心周期	
	第14回	心音と心雑音	
	第15回	まとめ	
教科書		系統看護学講座11版	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		生理学Ⅲ	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	中村真理子/野口克彦	科目副担当	
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	血圧 補助ポンプ 脈波と脈拍	
	第2回	血圧の調節	
	第3回	微小循環と血流	
	第4回	循環器の病態生理	
	第5回	腎臓の機能	
	第6回	ヘレンループ	
	第7回	排尿路 尿の輸送と貯蔵	
	第8回	体液の調節 酸塩基平衡	
	第9回	内臓機能の調節 自律神経系	
	第10回	内分泌と外分泌	
	第11回	内分泌各論	
	第12回	膵臓	
	第13回	内分泌各論	
	第14回	ホルモンの調節	
	第15回	まとめ	
教科書		系統看護学講座12版	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		運動学 I		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	
目 標	総合	基礎運動学における身体運動の機構を科学的に分析する知識や物理学に基づく生体力学、運動		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	運動学とは？		
	第2回	力学と身体運動		
	第3回	運動の表わし方		
	第4回	運動の法則		
	第5回	仕事と力学的エネルギー		
	第6回	剛体に働く力		
	第7回	骨の構造と機能		
	第8回	関節の構造と機能		
	第9回	腱の構造と機能		
	第10回	靱帯の構造と機能		
	第11回	骨格筋		
	第12回	神経筋接合部と神経筋伝達		
	第13回	筋収縮のメカニズム		
	第14回	神経系（概要のみ）		
	第15回	総合まとめ		
教科書		基礎運動学第6班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		運天 督	科目副担当	
目 標	総合	上肢帯、上肢、体幹、下肢を構成する骨、筋、靱帯その他の軟部組織の構造を理解し、人体が		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	顔面、上肢帯と上肢の運動		
	第2回	肩関節		
	第3回	肘関節と前腕の運動		
	第4回	手関節と手の運動		
	第5回	体幹の運動		
	第6回	頸椎・胸椎・胸郭の運動		
	第7回	腰椎の運動		
	第8回	下肢帯と股関節の筋と運動について		
	第9回	膝関節の運動について		
	第10回	足関節の動きについて		
	第11回	足アーチについて		
	第12回	姿勢制御について		
	第13回	歩行と走行①		
	第14回	歩行と走行②		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第7班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーション専門職として「下肢の運動」について理解し、特に「姿勢」「歩行」「走		
	行動	理学療法の対象となる体の動きについて、運動学の用語を用いて説明できるようになる人の動きを「姿		
講 義 計 画	第1回	総論 運動学に必要な基本的な知識の整理		
	第2回	下肢帯と下肢の運動Ⅰ 股関節①		
	第3回	股関節②		
	第4回	下肢帯と下肢の運動Ⅱ 膝関節①		
	第5回	膝関節②		
	第6回	下肢帯と下肢の運動Ⅲ 足関節・足部①		
	第7回	足関節・足部②		
	第8回	足関節下肢帯と下肢の運動のまとめ		
	第9回	姿勢 重心とアライメント		
	第10回	姿勢の分類		
	第11回	歩行 歩行周期		
	第12回	歩行分析		
	第13回	走行 走行と歩行の違い		
	第14回	運動学的分析		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第8班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		人間発達学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当		渡名喜 愛	科目副担当	
目 標	総合	1.正常発達を知る。1. 身体の形態発達の過程を理解する。2. 新生児期や乳幼児期の運動と		
	行動	1.正常発達を知ることができる。2.正常姿勢反射を知ることができ、異常な姿勢反射につなげることが		
講 義 計 画	第1回	人間発達とは・運動理論について		
	第2回	運動機能について①（胎生期・新生児期）		
	第3回	運動機能について②（乳児期）		
	第4回	運動機能について（学童期）		
	第5回	運動機能について（青年期～成人期）		
	第6回	運動機能について（高齢期）		
	第7回	運動機能の発達 5（青年期～高齢期）		
	第8回	認知機能の発達		
	第9回	情緒の発達		
	第10回	社会性の発達		
	第11回	パーソナリティーの発達		
	第12回	ライフステージにおける機能別発達について①		
	第13回	ライフステージにおける機能別発達過程について②		
	第14回	発達検査とは		
	第15回	まとめ		
教科書		小児理学療法学テキスト		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		病理学総論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	比嘉 盛治	科目副担当	
目標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。1. 病気の発生機序を説明できる。2. 病気の回復メカニズムを説明できる。	
	行動	0	
講義計画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書		資料配布	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		内科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		大山拓真	科目副担当	
目 標	総合	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について説明できる。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方		
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理		
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT、OTの関連4循環器		
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性		
	第5回	5 呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハ		
	第6回	6 消化管疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連		
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H		
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FF		
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリンノーマ 3 脂質異常症		
	第10回	1 0 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2		
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論		
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾		
	第13回	1 3 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識		
	第14回	まとめ		
	第15回	まとめ		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第4版 内科学		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーション関連医学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		伊藤、中村、安田	科目副担当	
目 標	総合	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解する		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	総論① オリエンテーション講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する		
	第2回	理学療法管理学の源流②		
	第3回	病院の分類と組織③		
	第4回	専門職とチームケア④		
	第5回	社会保障のしくみ⑤		
	第6回	医療保険制度⑥		
	第7回	介護保険制度⑦		
	第8回	職業倫理⑧グループワーク		
	第9回	業務管理⑨グループワーク		
	第10回	業務・情報管理⑩		
	第11回	感染症管理⑪		
	第12回	教育管理⑫		
	第13回	リスク管理⑬		
	第14回	リスク管理⑭		
	第15回	総まとめ各自総まとめを整理する		
教科書		リハベーシック 薬理学・臨床薬理学系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやす		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験・小テスト		
履修 アドバイス				

科目名		整形外科科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		安田知子	科目副担当	
目標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。		
	行動	運動器疾患である整形外科の診断と治療について述べられるようになる。それぞれの疾患の概要から		
講義計画	第1回	整形外科科学総論/整形外科とは、整形外科科学とはなにか		
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断		
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法		
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷		
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靭帯損傷・脱臼		
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節		
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手		
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節		
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節		
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患		
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首		
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症		
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症		
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患		
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線		
教科書		整形外科科学テキスト[改訂第4版] 南江堂		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		神経内科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	当真 祐二	科目副担当	
目標	総合	神経内科学の疾患を理解する	
	行動	脳の血管の解剖と整理学的特徴を理解する。脳血管障害の分類と疫学を学ぶ。各種脳血管障害の成因、	
講義計画	第1回	オリエンテーション神経系の構成と発生脳区分と局所徴候	
	第2回	脳血管障害について分類出血部位の頻度治療について	
	第3回	脳出血(各論)被殻出血視床出血	
	第4回	脳出血(各論)皮質下出血橋出血	
	第5回	脳出血について(各論)橋出血②	
	第6回	脳出血について(各論)くも膜下出血について正常圧水頭症について	
	第7回	脳梗塞について脳塞栓症脳血栓症	
	第8回	アテローム血栓性脳梗塞について	
	第9回	ラクナ梗塞について	
	第10回	脳解剖見学実習	
	第11回	心原性脳塞栓症について	
	第12回	画像所見	
	第13回	脳解剖見学実習	
	第14回	CT・MRI画像診断	
	第15回	まとめ	
教科書		神経内科学テキスト[改訂第4版] 南江堂	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・課題	
履修 アドバイス			

科目名		精神医学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	OT教員	科目副担当	
目標	総合	精神医学の概要を理解する	
	行動	精神症状について理解する精神医療を理解する疾患について理解する	
講義計画	第1回	総論	
	第2回	精神機能とその異常	
	第3回	精神医療と社会	
	第4回	統合失調症	
	第5回	認知症	
	第6回	てんかん	
	第7回	精神医学的診察と診断	
	第8回	症状精神病	
	第9回	発達障害	
	第10回	物質関連商連	
	第11回	気分障害	
	第12回	精神症性障害	
	第13回	脳科学と精神医学	
	第14回	パーソナリティ障害	
	第15回	精神的治療学	
教科書		標準精神医学 第8班	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		小児科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必修区分	必修
科目主担当	知花 愛里	科目副担当	
目 標	総合	1. 主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。2. 小児疾患全般を理解し、リハビリテーションを行う。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	発達について	
	第2回	新生児について	
	第3回	3-4カ月の発達	
	第4回	6-7カ月の発達	
	第5回	8-12カ月の発達	
	第6回	神経発達症について	
	第7回	1才の発達について	
	第8回	2才の発達について。発達のまとめ	
	第9回	3才の発達について	
	第10回	4才の発達について	
	第11回	5才の発達について	
	第12回	7-11才の発達について	
	第13回	11-14才の発達について	
	第14回	14-17才の発達について	
	第15回	期末試験	
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーション概論Ⅰ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		渡名喜 愛	科目副担当	
目 標	総合	医療以外の範囲も含めたリハビリテーションの概念、歴史、世界・日本での発展から現在の状況		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション概論① オリエンテーション 講義の流れ、総論（概念・理念・		
	第2回	リハビリテーション概論② 健康と障害の概念と分類資料参照		
	第3回	リハビリテーション概論③ 障害の心理的・社会的視点資料参照		
	第4回	リハビリテーション概論④ ヒトの発達と評価（特に小児）資料参照		
	第5回	リハビリテーション概論⑤ リハビリテーション過程資料参照		
	第6回	リハビリテーション概論⑥ リハビリテーションの諸段階資料参照		
	第7回	リハビリテーション概論⑦ 医療とリハビリテーション専門職種と役割資料参照		
	第8回	リハビリテーション概論⑧ チームアプローチ資料参照		
	第9回	リハビリテーション概論⑨ ADL,QOLの概念と評価法資料参照		
	第10回	リハビリテーション概論⑩ 医療・リハビリテーション医療（医療機関で行うリハビ		
	第11回	リハビリテーション概論⑪ 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア資料参照		
	第12回	リハビリテーション概論⑫ 高齢者・健康対策と少子化対策資料参照		
	第13回	リハビリテーション概論⑬ 医療・福祉制度資料参照		
	第14回	リハビリテーション概論⑭ 医療法・福祉関係法規資料参照		
	第15回	総まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験・グループワーク		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーション概論Ⅱ	
履修時期		1年次	単位/時間数
科目区分		専門基礎分野	必修区分
科目主担当		渡邊 富士雄	科目副担当
目 標	総合	地域理学療法について理解できる	
	行動	1、地域の環境を理解する 2、医療・介護の制度を理解する 3、地域包括ケアを理解する	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーションの概念	
	第2回	健康と障がいの概念	
	第3回	障がいの心理的社会的概念	
	第4回	ヒトの発達と評価	
	第5回	リハビリテーション過程	
	第6回	リハビリテーションの諸段階	
	第7回	医療とリハビリテーション専門職と役割	
	第8回	チームアプローチ	
	第9回	ADL.QOLの概念	
	第10回	医療と義肢装具	
	第11回	地域リハビリテーション	
	第12回	高齢者と少子化	
	第13回	医療・福祉制度	
	第14回	関連法規	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・グループワーク	
履修 アドバイス			

科目名		理学療法概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	玉城大勸	科目副担当	
目標	総合	理学療法の概念を理解する	
	行動	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解し、理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得する。	
講義計画	第1回	理学療法の概念と歴史	
	第2回	理学療法士の法律	
	第3回	理学療法士の関連法規	
	第4回	理学療法の意義と役割	
	第5回	理学療法の対象	
	第6回	理学療法の方法	
	第7回	運動療法・物理療法	
	第8回	理学療法士の組織	
	第9回	理学療法士教育	
	第10回	医療・保健分野の理学療法	
	第11回	地域リハビリテーションと理学療法	
	第12回	医療事故とリスクマネジメント	
	第13回	個人情報の管理と対象の権利	
	第14回	臨床教育の実践	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評価方法		期末試験・グループワーク	
履修 アドバイス			

科目名		臨床運動学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		林 敏彦	科目副担当	
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】基礎バイオメカニクスを学び、人の正常動作メカニズムを説明できる		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	バイオメカニクスの基本事項 1) 重心の考え方 2) 加速度と力の関係 3) 床反力とは		
	第2回	バイオメカニクスの基本事項 1) 床反力鉛直方向成分立ち上がり動作とは		
	第3回	バイオメカニクスの基本事項 1)		
	第4回	立位と歩き始め		
	第5回	立位と歩き始め実技：麻痺側の歩行の介助と訓練		
	第6回	歩行：一般的な歩行		
	第7回	歩行：歩行中の重心と支持基底面		
	第8回	歩行：歩行中の床反力		
	第9回	動作を可能にするメカニズム 3つのロッカー機能・ヒールロッカー・アングルロッカー		
	第10回	衝撃吸収のメカニズム		
	第11回	歩行中の関節モーメント		
	第12回	代表的な異常歩行		
	第13回	姿勢と動作		
	第14回	変形性膝関節症の機能評価		
	第15回	まとめ		
教科書		観察による歩行分析		
授業方法		講義、実技、グループワークなど		
評価方法		講義、出席、定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡邊 富士雄	科目副担当	
目 標	総合	運動療法の中の各種運動の理論を学び、基本的な運動療法の実技を習得する。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	運動療法の概念(定義、目的、対象、原理)教科書概観レポート発表振り分け	
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法①可動域制限因子・治療のためのアプローチ・スタ	
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法②動的ストレッチ、PNFストレッチ、IDストレッチ	
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法③関節モビライゼーション(滑り、転がり、構成運	
	第5回	筋力低下に対する運動療法①筋張力に影響する因子、筋力トレーニングの原則<レポ	
	第6回	筋力低下に対する運動療法②トレーニングの分類、進め方OKC・CKC<レポート発表	
	第7回	持久力低下に対する運動療法①定義・エネルギー供給システム・持久力トレーニング	
	第8回	筋持久力低下に対する運動療法②至適運動強度・効果<レポート発表>パーキンソン	
	第9回	バランス障害に対する運動療法分類・捉え方・評価のポイント・理論・実際<レポー	
	第10回	協調性運動障害に対する運動療法①運動の発現・協調性運動障害の分類・運動失調の	
	第11回	協調性運動障害に対する運動療法②代表的な運動療法<レポート発表>サルコイドー	
	第12回	姿勢障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際<レポート発表>小児	
	第13回	歩行障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際ビデオによる動作観察	
	第14回	歩行障害に対する運動療法ビデオによる動作観察	
	第15回	まとめ	
教科書		運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明編	
授業方法		教科書の内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディや演習などを通して学習す	
評価方法		本講義の記述試験(90%)レポート発表(10%)の割合で総合的に評価を行う。	
履修 アドバイス			

科目名		運動療法学Ⅱ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		玉城 大勸	科目副担当	
目 標	総合	整形外科分野の疾患に対する評価及び運動療法について学ぶ。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	運動療法学Ⅱ 概論ロコモティブシンドロームロコモテスト		
	第2回	骨折 評価と運動療法（1）運動器リハビリテーション施設基準と診療報酬		
	第3回	骨折 評価と運動療法（2）RICE処置 ギプス固定		
	第4回	腰部 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症）		
	第5回	腰部 評価と運動療法（2） 整形外科的検査(腰痛症) 表書き込み骨折 評価と運動療法		
	第6回	胸郭出口症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）		
	第7回	頸肩腕症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）表書き込み整形外科的検査		
	第8回	股関節 評価と運動療法（1）整形外科的検査（頸肩腕症候群）表書き込み整形外科的検査		
	第9回	股関節 評価と運動療法（2）整形外科的検査(股関節) 表書き込み		
	第10回	膝関節疾患 評価と運動療法（1）整形外科的検査(膝関節)		
	第11回	膝関節疾患 評価と運動療法（2）整形外科的検査(膝関節) 表書き込み		
	第12回	RA 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群）		
	第13回	RA 評価と運動療法（2）RA体操		
	第14回	スポーツ外傷運動療法の原理・指導法と禁忌運動器疾患の理学療法テクニック（DVD）		
	第15回	総まとめ		
教科書		理学療法評価学		
授業方法		講義、実技		
評定方法		筆記試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	山城 範洋	科目副担当	
目 標	総合	内部障害に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	循環器(内科系) 理学療法	
	第3回	循環器(外科系) 理学療法	
	第4回	末梢循環障害理学療法	
	第5回	腎機能障害の理学療法	
	第6回	呼吸器障害の理学療法①	
	第7回	呼吸器障害の理学療法②	
	第8回	呼吸器障害の理学療法③	
	第9回	ICUの理学療法/吸引	
	第10回	糖尿病の理学療法①	
	第11回	糖尿病の理学療法②	
	第12回	がんの理学療法①	
	第13回	がんの理学療法②	
	第14回	BLS/患者教育	
	第15回	まとめテスト	
教科書		資料配布	
授業方法		講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		運動療法学Ⅳ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		梅木 綾乃	科目副担当	
目標	総合	理学療法の対象として、中神経系疾患であり、整形外科疾患でもある脊髄損傷の障害を理解する。		
	行動	急性期から維持期（生活適応期）に至るまでの脊髄損傷の主な障害について述べられるようになる自立。		
講義計画	第1回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第2回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。		
	第3回	疫学調査 受傷機転と転帰		
	第4回	評価① 急性期の評価 IsCos Zancolli		
	第5回	評価② 不全損傷の分類評価		
	第6回	呼吸機能障害		
	第7回	自律神経障害		
	第8回	膀胱直腸障害		
	第9回	評価③ 症例検討		
	第10回	脊髄損傷者の動作学 起居動作から運動学を学ぶ リスク管理 褥瘡とバランス機能		
	第11回	ADL（1） ADL評価：SCIM		
	第12回	ADL（2） 脊髄損傷者の実際		
	第13回	ADL（3）		
	第14回	性機能障害		
	第15回	まとめ		
教科書		岩崎 洋編：脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版、東京、文光堂、2014年		
授業方法		講義、実技		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学Ⅴ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小野泰輔	科目副担当	
目 標	総合	・正常発達の理解・脳性麻痺の理学療法評価・脳性麻痺の理学療法	
	行動	脳性まひの分類を理解し、全体像を捉えることができる。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション小児理学療法の概要療育業政サービス教育	
	第2回	正常運動発達0～3カ月	
	第3回	正常運動発達4～6カ月7～9カ月	
	第4回	正常運動発達10～12カ月発達検査ダウン症	
	第5回	子どもの遺伝性疾患DMD児、年齢に応じた理学療法介入その他の遺伝性疾患	
	第6回	子どもの整形外科疾患二分脊椎ヘルネス骨形成不全	
	第7回	脳性麻痺 総論	
	第8回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第9回	脳性麻痺 総論痙直型	
	第10回	ケーススタディ	
	第11回	主要問題(両まひケーススタディ) から理学療法を考える	
	第12回	脳性麻痺アテトーゼ型	
	第13回	重症心身障害児(者)	
	第14回	発達障害	
	第15回	期末試験	
教科書		小児理学療法学テキスト	
授業方法		講義、実技	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		運動療法学Ⅵ	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		当真祐二	科目副担当
目標	総合	脳血管障害の全体像を捉え問題点を抽出し、それに対する運動療法を考案できるようになる。	
	行動	障害に対して検査項目を挙げ、実施することができる。	
講義計画	第1回	オリエンテーション講義目標・方法、評価方法、講義内容説明	
	第2回	脳血管障害の概論・症例検討Ⅰ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第3回	症例検討Ⅰ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第4回	症例検討Ⅰ 動画(動作観察、起き上がり・立ち上がり動作評価、問題点の抽出)	
	第5回	症例検討Ⅰ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第6回	症例検討Ⅱ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第7回	症例検討Ⅱ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第8回	症例検討Ⅱ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第9回	症例検討Ⅱ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第10回	症例検討Ⅲ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第11回	症例検討Ⅲ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列举	
	第12回	症例検討Ⅲ 動画(動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出)	
	第13回	症例検討Ⅲ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第14回	まとめ① 脳卒中のリハビリテーション 発表	
	第15回	まとめ② 脳卒中のリハビリテーション 発表	
教科書		千住秀明 監：理学療法学テキストⅣ 中枢神経疾患の理学療法 第2版	
授業方法		講義、グループワーク中心に実施	
評定方法		小テスト、グループ発表、試験	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーションセミナーⅠ	
履修時期		1年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	科目副担当
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。	
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。	
講 義 計 画	第1回	国家試験の問題形式を理解する	
	第2回	問題用紙を教科書を用いて解答を行う	
	第3回	国家試験の問題形式を理解する	
	第4回	解答解説をグループで実施する	
	第5回	国家試験の問題形式を理解する	
	第6回	解答解説を個人で実施する	
	第7回	解答解説をグループで実施する	
	第8回	解答解説を報告する	
	第9回	国家試験の問題形式を理解する	
	第10回	解答解説を個人で実施する	
	第11回	解答解説をグループで実施する	
	第12回	解答解説を報告する	
	第13回	配布問題集の説明をグループ内で実施する	
	第14回	配布問題集の解答解説を実施する	
	第15回	総まとめ	
教科書		資料配布	
授業方法		講義、グループワーク	
評定方法		小テスト、グループ発表、試験	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーションセミナーⅡ	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	科目副担当
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。	
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。	
講 義 計 画	第1回	国試対策 末梢神経	
	第2回	末梢神経 解答・解説 グループワークで行う	
	第3回	国試対策 中枢神経	
	第4回	中枢神経 解答・解説をグループにて行う	
	第5回	国試対策 反射・筋活動・感覚	
	第6回	反射・筋活動・感覚 解答と解説をグループワークにて行う	
	第7回	国試対策 呼吸	
	第8回	呼吸 解答・解説をグループワークにて行う	
	第9回	国試対策 循環	
	第10回	循環 解答・解説をグループワークにて行う	
	第11回	国試対策 消化器	
	第12回	消化器系 解答・解説をグループワークにて行う	
	第13回	国試対策 排尿	
	第14回	排尿 解答・解説をグループワークにて行う	
	第15回	まとめ	
教科書		基礎固めヒント式トレーニング 南江堂	
授業方法		講義、グループワーク	
評定方法		出席、課題、グループ発表	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーションセミナーⅢ		
履修時期		3年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学・臨床医学を理解する		
	行動	理学療法概論・技術論の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	国試対策		
	第2回	国試対策		
	第3回	国試対策		
	第4回	国試対策		
	第5回	国試対策		
	第6回	国試対策		
	第7回	国試対策		
	第8回	国試対策		
	第9回	国試対策		
	第10回	国試対策		
	第11回	国試対策		
	第12回	国試対策		
	第13回	国試対策		
	第14回	国試対策		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法管理学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	池城正浩	科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーション科を専門とする職場の管理、組織化、業務管理、教育について知る。	
	行動	「知識・技術」とともに「柔軟な思考」と「豊かな発想」、そしてそれらを効果的に操る「マネイジメ	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション科における管理とは	
	第2回	自らが成長しうることへの支援とは	
	第3回	職員配置と業務の組織化	
	第4回	質的管理のための体制づくり	
	第5回	病棟・施設業務管理	
	第6回	部署内の情報伝達の工夫	
	第7回	院内活動への参加	
	第8回	年間計画に基づく個人目標の管理	
	第9回	リハビリテーション専門職のインセンティブ	
	第10回	リハビリテーション専門職のストレスチェック	
	第11回	医療専門職の継続教育	
	第12回	リーダーシップとマネイジメント	
	第13回	リハビリテーション科のリーダーとは	
	第14回	リハビリテーション科の効果的な収益管理	
	第15回	まとめ	
教科書		リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社	
授業方法		講義、グループワーク、調べ学習	
評定方法		講義・グループワーク・調べ学習・期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		理学療法評価学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	渡名喜愛	科目副担当	
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技が	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講義計画	第1回	総論形態測定	
	第2回	関節可動域測定	
	第3回	肩関節	
	第4回	肘	
	第5回	手関節	
	第6回	股関節	
	第7回	膝関節	
	第8回	足部	
	第9回	肩甲骨	
	第10回	体幹	
	第11回	頸部	
	第12回	周径	
	第13回	症例検討	
	第14回	実技確認	
	第15回	まとめ	
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社	
授業方法		講義・実技・グループワークなど	
評価方法		期末試験・実技試験	
履修 アドバイス			

科目名		理学療法評価学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		梅木綾乃	科目副担当	
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技の		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	総論・筋力測定		
	第2回	肩甲帯		
	第3回	肩関節		
	第4回	肘		
	第5回	手関節		
	第6回	股関節		
	第7回	膝関節		
	第8回	足部		
	第9回	肩甲骨		
	第10回	体幹		
	第11回	頸部		
	第12回	周径		
	第13回	症例検討		
	第14回	実技確認		
	第15回	まとめ		
教科書		新・徒手筋力検査法		
授業方法		講義・実技・グループワークなど		
評定方法		期末試験・実技試験		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法評価学Ⅲ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		玉城大勸	科目副担当	
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技を		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	理学療法評価学Ⅲ ①オリエンテーション 問診講義の流れ、総論、検査の目的・意		
	第2回	理学療法評価学Ⅲ② 疼痛検査の意義・目的・方法を実践出来る資料参照		
	第3回	理学療法評価学Ⅲ③ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第4回	理学療法評価学Ⅲ④ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第5回	理学療法評価学Ⅲ⑤ 知覚検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第6回	理学療法評価学Ⅲ⑥ 知覚検査を実践出来る資料参照		
	第7回	理学療法評価学Ⅲ⑦ 知覚検査を実践出来る資料参照		
	第8回	理学療法評価学Ⅲ⑧ 片麻痺検査の意義・方法を実践出来る資料参照		
	第9回	理学療法評価学Ⅲ⑨ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照		
	第10回	理学療法評価学Ⅲ⑩ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照		
	第11回	理学療法評価学Ⅲ⑪ SIASの意義・方法を実践出来る資料参照		
	第12回	理学療法評価学Ⅲ⑫ SIASの検査を実践出来る資料参照		
	第13回	理学療法評価学Ⅲ⑬ BBS、TUG、10m歩行速度の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照		
	第14回	理学療法評価学Ⅲ⑭ 症例に則した評価法の選択(ケーススタディ) 資料参照		
	第15回	総まとめ実技確認 感覚・協調性・片麻痺機能検査の実施が出来る各自まとめを整理		
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社		
授業方法		自主学習を主体として講義を進行する		
評定方法		実技及び定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法評価学Ⅳ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		仲間 成龍	科目副担当	
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明出来るようになる。又、検査手技が		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	各論① 深部腱反射・病的反射		
	第2回	各論② 深部腱反射・病的反射		
	第3回	各論③ 深部腱反射・病的反射		
	第4回	各論④ 筋トーヌス反射		
	第5回	各論⑤ 筋トーヌス反射		
	第6回	各論⑥ 姿勢反射検査		
	第7回	各論⑦ 姿勢反射検査		
	第8回	各論⑧ 姿勢反射検査		
	第9回	各論⑨ 脳神経検査		
	第10回	各論⑩ 脳神経検査		
	第11回	各論⑪ 高次脳機能検査		
	第12回	各論⑫ 高次脳機能検査		
	第13回	各論⑬ 高次脳機能検査		
	第14回	全体のまとめ①確認テストなど		
	第15回	全体のまとめ②確認テストのフィードバック		
教科書		松澤正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社医療情報科学研		
授業方法		講義・実技・グループワークなど		
評定方法		定期的に行われる単元テスト及び確認テスト、出席点や学習課題を総合的に評価する		
履修 アドバイス				

科目名		物理療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	立花 修平	科目副担当	
目 標	総合	安全、効果的に物理療法を実施することができる	
	行動	1. 理学療法分野における位置づけ、意義等を理解する。2. 生理学的背景を併せて理解し、適応・禁	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション、総論①	
	第2回	温熱療法について①	
	第3回	温熱療法について②	
	第4回	寒冷療法について①	
	第5回	牽引療法について	
	第6回	電気療法について①	
	第7回	電気療法について②	
	第8回	光線療法について①	
	第9回	光線療法について②	
	第10回	水治療について	
	第11回	水治療について	
	第12回	演習(ケーススタディー)	
	第13回	演習(ケーススタディー)	
	第14回	演習(ケーススタディー)	
	第15回	まとめ	
教科書		資料配布	
授業方法		講義、実技演習、グループワーク	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		日常生活技術論		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		運天 督	科目副担当	
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】ADLの概念、内容、基本的な評価について説明することができ、		
	行動	行動目標(SBO)】ADLについての基礎的な知識や動作分析のポイント、必要な評価方法について学習		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション シラバス説明第1回講義 ライフステージ(自身を俯瞰しながら		
	第2回	ADLと障害・障害分類(身体障害者福祉法、介護保険制度)とICIDH、ICF・平均寿		
	第3回	ICFとQOL・障害構造:医学モデル、障害モデル、国際生活機能分類・QOLの構造		
	第4回	ADLと運動学・運動の記録と解析(相分けと静動部位の記録)の実施(グループ毎に		
	第5回	ADLと運動学2・前回で確認した内容をグループ別に発表(グループ毎に課題選択し		
	第6回	ADL評価・評価における日常生活動作の概念より【概念】・人間の行動の3側面から		
	第7回	(症例検討)片麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足してい		
	第8回	(症例検討)脊髄損傷のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して		
	第9回	(症例検討)脳性麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して		
	第10回	(症例検討)慢性関節リウマチのADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(		
	第11回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL・初期症例情報をICF上に並べる・		
	第12回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL2・初期症例情報をICF上に並べる		
	第13回	まとめ1・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク		
	第14回	まとめ2・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク		
	第15回	まとめ3 期末テスト・基礎知識確認・症例選択問題		
教科書		標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院ケース		
授業方法		グループに別れて、お題に対して話し合いながら共通語を作っていきましょう		
評価方法		学期末テストを実施。		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小林/外間	科目副担当	
目 標	総合	PNFの基本理念、原則を理解する。理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、	
	行動	理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、その基本を習得する。	
講 義 計 画	第1回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第2回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第3回	・ 膝関節の構造・膝関節のmobilization	
	第4回	・ 足関節の構造・足関節・脛腓関節のmobilization	
	第5回	・ 肩関節の構造・肩関節のmobilization	
	第6回	・ 肘関節の構造・肘関節のmobilization	
	第7回	PNF哲学、基本原理	
	第8回	PNF肩甲骨のパターンRI、Rep、SR、RS、（座位）	
	第9回	PNF・哲学基本原理の復習・骨盤・上肢	
	第10回	・ 下肢・両上・下肢・カイザー体験記	
	第11回	PNF・上肢パターン・座位でのトレーニング	
	第12回	PNF・下肢のパターン・リラクゼーションテクニック（HR・CR）・Pappy	
	第13回	PNF・座位ー立ち上がり・四つ這いー膝立ち・起き上がり	
	第14回	PNF・床からの立ち上がり・歩行・まとめ	
	第15回	mobilizationまとめPNFまとめ	
教科書		理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ	
授業方法		実技を中心に実施	
評定方法		課題及び期末試験、受講状況を加味して総合的に判断する。	
履修 アドバイス			

科目名		神経障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		当真祐二	科目副担当	
目 標	総合	神経障害の理解とそのリハビリテーションを理解する。		
	行動	神経障害に対して、適切な評価、治療ができるようになる。		
講義計画	第1回	神経系の機能と構造・定義を理解する。		
	第2回	理学療法の介入方法・アプローチを理解する。		
	第3回	PD症状を理解する。		
	第4回	PDの理論と実際のリハビリテーションを理解する。		
	第5回	PD症例検討・グループワークにてPDの症状を体感する。		
	第6回	ギランバレー症候群の症状とリハビリテーションを理解する。		
	第7回	SCDの症状を理解する。		
	第8回	SCDの理論と実際を理解する。		
	第9回	SCDの症例検討、SCDのタイプ別リハをグループ別に発表する。		
	第10回	多発性硬化症の症状とリハビリテーションを理解する。		
	第11回	ALSの症状を理解する		
	第12回	ALSの理論と実際を理解する		
	第13回	ALSの症例検討、またタイプ別リハをグループ別に発表する		
	第14回	進行性筋ジストロフィーの症状をリハビリテーションを理解する。		
	第15回	まとめ		
教科書		①神経障害理学療法学 第1版 羊土社 ③病気がみえる 第2版 メディック		
授業方法		講義、課題、グループワーク、実技		
評定方法		期末試験（課題及び実技配点各10）		
履修 アドバイス				

科目名		運動器障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		玉城大勸	科目副担当	
目 標	総合	・運動器疾患に対する疾患別の理学療法を理解する。・各疾患に応じた機能解剖、原因、特徴		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	リモート講義総論構築学的アプローチについて凹凸の法則についてICFの考え方		
	第2回	リモート講義前回のおさらい筋肉痛について骨腱接合部 エンテシス関節軟骨末梢		
	第3回	リモート講義前回のおさらい末梢神経急性末梢神経損傷について皮膚機能骨折・脱臼		
	第4回	リモート講義前回のおさらい臨床でよく診る骨折⑤～大腿骨骨折分類術式からプロト		
	第5回	対面講義臨床でよく診る骨折 足部・脊椎圧迫骨折介達牽引・直達牽引骨粗鬆症につ		
	第6回	対面講義上肢(帯)の骨折発生の機序と症状鎖骨骨折ニア分類・ロビンソン分類等外傷		
	第7回	対面講義前回のおさらい上腕骨近位骨折その他骨折について分類・術式・リハについ		
	第8回	対面講義股関節疾患の整形外科的テスト紹介・実技脱臼しやすい運動（前方・後方）		
	第9回	7階実技変形性膝関節症について 序章膝蓋骨・膝関節モビライゼーション実技次回		
	第10回	7階実技実技 SLR パトリックオーベルテスト骨盤と膝関節の連鎖膝関節の三次元		
	第11回	7階実技前回の復習膝の内外反ストレステスト 実技TKA・Q角について肩関節障害		
	第12回	7階実技肩関節周囲炎について肩甲胸郭関節モビリゼーション 実技リハビリアプロ		
	第13回	7階実技椎間板原性疼痛非特異的腰痛症腰部脊柱管狭窄症姿勢評価・各種検査項目		
	第14回	特別講演 石塚 光太郎先生（浦添総合病院救急救命センター・整形外科・スポーツ		
	第15回	7階実技変形性股関節症足部疾患についてインソールについて 一部実技まとめ		
教科書		病気が見える⑪運動器・整形外科		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評定方法		期末試験4割、課題レポート3割、出欠席・授業態度(3割)		
履修 アドバイス				

科目名		呼吸・循環器障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		渡嘉敷瞬	科目副担当	
目 標	総合	呼吸・循環系の対する運動療法の基本原理と実際について理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	呼吸リハビリテーション総論		
	第2回	呼吸器疾患の病態		
	第3回	呼吸リハビリテーション評価		
	第4回	酸素療法、薬物治療、呼吸機器 1		
	第5回	酸素療法、薬物療法、呼吸機器 2		
	第6回	周術期の理学療法学		
	第7回	呼吸リハビリテーション維持期		
	第8回	超急性期のリハビリテーション		
	第9回	心臓リハビリテーション総論		
	第10回	循環器の解剖・生理 1		
	第11回	循環器の解剖、生理、病態		
	第12回	心電図、不整脈について		
	第13回	リスク管理について		
	第14回	テスト対策		
	第15回	期末試験		
教科書		呼吸リハビリテーションの理論と技術		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		義肢装具学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		金城 判	科目副担当	
目 標	総合	装具、義肢（義足・義手）の目的や分類、各部品の名称や働きの理解、分類や構造など基本事項の理解		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	義肢学総論 切断者のリハビリテーション●切断の定義・原因・部位・切断術的处理		
	第2回	切断者の評価義肢基本事項●断端長、断端周径、筋力●義肢装着前後訓練●リハビリテーション		
	第3回	義肢パーツ基本事項①(足部、義足ソケット)●通常歩行と義足歩行の足部の動きの違い		
	第4回	義肢パーツの基本事項②(膝継手)大腿義足の基本事項①●膝継手(立脚制御機能、遊脚制御機能)		
	第5回	大腿義足の基本事項②(アライメント)下腿義足の基本事項①●大腿義足の歩行の特徴		
	第6回	下腿義足の基本事項②(アライメント)膝義足、サイム義足の基本事項●下腿義足の歩行の特徴		
	第7回	股義足の基本事項●股義足対象の切断●股義足の歩行の特徴●股義足のチェックアウト		
	第8回	足部切断用義足、義手●足部切断用義足の種類、機能●義手の種類と使用部位		
	第9回	装具総論●義肢と装具の違い●装具の分類(長さによる分類、アメリカ機能分類など)		
	第10回	下肢装具①(装具の効果とアライメント)金属支柱付き下肢装具の基本事項●矢状面がけ		
	第11回	下肢装具②(装具の効果とアライメント)プラスチック短下肢装具の基本事項、特殊装具		
	第12回	大腿装具(頸椎装具、頸胸椎装具)の基本事項●体幹装具の基本構造(バンド、支柱の材料)		
	第13回	体幹装具(胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具)の基本事項側弯症用装具の基本事項		
	第14回	側弯症用の装具の基本事項②●側弯症の評価(ベンディング(前屈)テスト、コブ角)●		
	第15回	上肢装具の基本事項スポーツ障害の基本事項●上肢装具の使用目的の分類●上肢装具		
教科書		PT・OTビジュアルテキスト		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		基礎理学療法学 I		
履修時期		3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学の理解ができる		
	行動	解剖学の知識の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	解剖学総論		
	第2回	解剖学骨		
	第3回	解剖学靱帯		
	第4回	解剖学筋肉		
	第5回	循環器		
	第6回	呼吸器		
	第7回	消化器		
	第8回	泌尿器		
	第9回	生殖器		
	第10回	感覚器		
	第11回	中枢神経		
	第12回	末梢神経		
	第13回	アクティブラーニング		
	第14回	アクティブラーニング		
	第15回	アクティブラーニング		
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法		グループワーク・講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		基礎理学療法学Ⅱ	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門分野	必修区分
科目主担当		各学年	科目副担当
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	生理学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	生理学総論	
	第2回	循環器	
	第3回	呼吸器	
	第4回	消化器	
	第5回	泌尿器生殖器	
	第6回	血液	
	第7回	ホルモン	
	第8回	体温調節	
	第9回	生体防御	
	第10回	末梢神経の機能	
	第11回	中枢神経の機能	
	第12回	神経伝達	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		基礎理学療法学Ⅲ	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必修区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	運動学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	運動学総論	
	第2回	上肢下肢運動方向	
	第3回	筋の起始停止	
	第4回	運動力学	
	第5回	仕事とエネルギー	
	第6回	運動の中樞神経機構	
	第7回	動作分析	
	第8回	姿勢	
	第9回	歩行と走行	
	第10回	運動発達	
	第11回	学習と記憶	
	第12回	運動学習の諸理論	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		専門理学療法学Ⅰ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる		
	行動	理学療法に関する疾患の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について		
	第2回	解剖学問題30問		
	第3回	解剖学問題解答解説		
	第4回	生理学問題30問		
	第5回	生理学について解答解説		
	第6回	運動学国家試験30問		
	第7回	運動学解答解説		
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①		
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②		
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説		
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説		
	第12回	ミックス問題について：まとめ		
	第13回	国家試験まとめ		
	第14回	国家試験共通問題100問		
	第15回	国家試験共通問題100問		
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法		グループワーク・講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		専門理学療法学Ⅱ		
履修時期		3年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる		
	行動	理学療法に関する評価の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について		
	第2回	解剖学問題30問		
	第3回	解剖学問題解答解説		
	第4回	生理学問題30問		
	第5回	生理学について解答解説		
	第6回	運動学国家試験30問		
	第7回	運動学解答解説		
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①		
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②		
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説		
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説		
	第12回	ミックス問題について：まとめ		
	第13回	国家試験まとめ		
	第14回	国家試験共通問題100問		
	第15回	国家試験共通問題100問		
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法		グループワーク・講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		専門理学療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する治療の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

2023 理学療法学科 金武校屋間主シラバス

科目名		文学	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	山城 初子	科目副担当	
目 標	総合	自分の言いたいことが相手に伝わるように、口頭や文章で表現できる。	
	行動	1. 疑問に思ったことを調べたり、尋ねたりできる。2. 日本語の敬意の表し方を知る。3. 沖縄の文	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	コラムの書写	
	第3回	身体に関する語句の読みと意味の練習	
	第4回	四字熟語について（1）	
	第5回	四字熟語について（2）比喩表現について	
	第6回	抽象的表現を読み取る	
	第7回	敬語の基本知識について、短歌を味わう	
	第8回	電話の応答について、俳句を味わう	
	第9回	詩の鑑賞	
	第10回	沖縄方言の概説、琉歌に触れる	
	第11回	語句（骨格等、専門分野関係）の練習	
	第12回	DVDを見て感想を書く	
	第13回	1分間スピーチの原稿作成	
	第14回	1分間スピーチ発表	
	第15回	まとめ	
教科書		資料配布	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		生物学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		宮里 幸利	科目副担当	
目 標	総合	生物の基礎を理解する。		
	行動	1. 動物細胞の構造と機能と分裂について説明できる 2. 人の受精卵～胎児までの流れが説明できる 3		
講 義 計 画	第1回	細胞の構造と生命誕生		
	第2回	生命体を構成する物質		
	第3回	遺伝子の構造と機能		
	第4回	生体とエネルギー		
	第5回	光合成と窒素同化		
	第6回	細胞の分裂、情報伝達、ガン化		
	第7回	生命体の授精と成長		
	第8回	確認テスト		
	第9回	多細胞生物の自己維持機構		
	第10回	遺伝のしくみと遺伝病		
	第11回	生物と環境がつくる生態系		
	第12回	生物の進化と多様性		
	第13回	生命科学技術と社会		
	第14回	確認テスト		
	第15回	まとめ		
教科書		生理学・生化学につながるていねいな生物学		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		情報処理	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	井黒萌	科目副担当	
目 標	総合	"情報処理技法では、基本的なPC操作について学習をし今後も必要となるスキルアップを身に	
	行動	Wordの操作ができるExcelの操作ができるPowerPointの操作ができるipadの操作ができる	
講 義 計 画	第1回	コンピューターの基本操作	
	第2回	インターネットの利用方法	
	第3回	Word実習（１）：Wordの基本操作	
	第4回	Word実習（２）：表とオブジェクトの利用	
	第5回	Word実習（３）：ビジネス文書の作成	
	第6回	Word実習（４）：ワードアートの利用	
	第7回	Excel実習（１）：Excelの基本操作	
	第8回	Excel実習（２）：関数の利用	
	第9回	Excel実習（３）：グラフの作成	
	第10回	Excel実習（４）：データベースの利用	
	第11回	Excel実習（５）：統計分析	
	第12回	PowerPoint実習（１）：PowerPointの基本操作	
	第13回	PowerPoint実習（２）：スライドショーとアニメーションの利用	
	第14回	PowerPoint実習（３）：スライドの作成	
	第15回	PowerPoint実習（４）：発表演習	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評価方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		医学英語	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	宮城 嗣高	科目副担当	
目 標	総合	解剖・運動学で学ぶ筋や骨、また臨床にて必要となる各疾患等の名称を医学英語にて学習し、	
	行動	医療で使用する一般的な単語が理解できる各部位の単語が理解できる各部位の単語を表出できる	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション・職種についての医学英語	
	第2回	姿勢の分類について	
	第3回	身体の面・方向・位置について	
	第4回	身体部位について（骨・関節等）	
	第5回	基本的運動方向について	
	第6回	運動について	
	第7回	筋収縮について	
	第8回	関節可動域等について	
	第9回	福祉用具・リハビリ機器について	
	第10回	病態・疾患について	
	第11回	筋について（1）	
	第12回	筋について（2）	
	第13回	筋について（3）	
	第14回	医療現場で使われる用語・略語	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評価方法		期末試験・小テスト	
履修 アドバイス			

科目名		心理学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		宮城 千恵子	科目副担当	
目 標	総合	人の心の機能について知る		
	行動	1. 心の機能について説明できる 2. 心の発達について説明できる 3. 心理検査の種類と概要を説明で		
講 義 計 画	第1回	心理学とは		
	第2回	知覚の心理学Ⅰ		
	第3回	知覚の心理学Ⅱ		
	第4回	記憶の心理学Ⅰ		
	第5回	記憶の心理学Ⅱ		
	第6回	学習の心理学Ⅰ		
	第7回	学習の心理学Ⅱ		
	第8回	発達の心理学Ⅰ		
	第9回	発達の心理学Ⅱ		
	第10回	青年期の心理Ⅰ		
	第11回	青年期の心理Ⅱ		
	第12回	性格の心理学		
	第13回	社会心理学Ⅰ		
	第14回	社会心理学Ⅱ		
	第15回	総合まとめ		
教科書		イラストレート心理学入門		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		社会福祉概論	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	古御堂 正	科目副担当	
目標	総合	社会福祉の概要を理解できる	
	行動	<キーワード>社会福祉の魅力と重要性を理解する 社会福祉専門職に期待される役割を理解する現	
講義計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	児童の福祉	
	第3回	貧困・低所得者の福祉	
	第4回	保育分野の福祉	
	第5回	スクールソーシャルワーク	
	第6回	高齢者の福祉	
	第7回	司法現場での福祉	
	第8回	医療ソーシャルワーク	
	第9回	障害者の福祉	
	第10回	精神保健福祉	
	第11回	障がいをもつ学生への支援	
	第12回	地域における福祉実践①－NPO	
	第13回	地域における福祉実践②－社会福祉協議会	
	第14回	地域における福祉実践③－地方自治体	
	第15回	まとめ	
教科書		配布資料	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		実践コミュニケーション		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		川上幸司	科目副担当	
目標	総合	社会でのコミュニケーション技術を身につける		
	行動	・社会人として必要な資質、医療専門職として求められる資質を磨く努力ができる。 ・理学療法士を取		
講義計画	第1回	なぜコミュニケーションを学ぶのか		
	第2回	社会で働くために必要な力とは		
	第3回	伝える・伝わるコミュニケーションとは		
	第4回	コミュニケーションのタイプ		
	第5回	コミュニケーションにおける解決と解消		
	第6回	養成校でのコミュニケーション		
	第7回	臨床実習で求められるコミュニケーション		
	第8回	就職活動から入職までに身に付けたいコミュニケーション		
	第9回	人と育てるコミュニケーション		
	第10回	職場でのコミュニケーション		
	第11回	臨床現場でのコミュニケーション		
	第12回	医療安全のためのコミュニケーション		
	第13回	クレーム対応のコミュニケーション		
	第14回	ミーティングのためのコミュニケーション		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験・報告会		
履修アドバイス				

科目名		解剖学 I	
履修時期	1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	諸見里恵一	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の構造を覚える。	
	行動	1. 人体の構造を示す分類や名称を言える。2. 内臓の名称と所在箇所を説明できる。3. 血管の名称と	
講 義 計 画	第1回	総論	
	第2回	循環器疾患概論	
	第3回	心臓	
	第4回	心臓	
	第5回	心臓 脳底動脈	
	第6回	動脈	
	第7回	静脈	
	第8回	内臓	
	第9回	胃、小腸、大腸、肝臓	
	第10回	肝臓、呼吸器	
	第11回	肺、喉頭、腎臓	
	第12回	泌尿器	
	第13回	生殖器、内分泌	
	第14回	発生	
	第15回	まとめ	
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		解剖学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		諸見里恵一	科目副担当	
目標	総合	正常な骨関節の構造が分かる		
	行動	1, 骨の場所・名称が言える 2, 筋肉の起始停止の場所が理解できる 3, 靱帯の起始停止の場所が理解		
講義計画	第1回	解剖学総論		
	第2回	脊柱		
	第3回	脊柱		
	第4回	頭蓋		
	第5回	頭蓋		
	第6回	上肢骨		
	第7回	下肢骨		
	第8回	下肢骨		
	第9回	頭蓋の関節 脊柱の関節		
	第10回	上肢の関節		
	第11回	骨学実習		
	第12回	骨学実習		
	第13回	下肢の関節		
	第14回	下腿の関節		
	第15回	まとめ		
教科書		プロメテウス解剖学アトラス		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		解剖学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		高山 千利	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の筋肉の構造を知る。		
	行動	1. 神経の名称が言える。2. 各神経の部位と構造・機能が説明できる。		
講 義 計 画	第1回	神経解剖ガイダンス 神経組織 1		
	第2回	神経組織 2 再生と変性		
	第3回	脊髄神経		
	第4回	脊髄神経 脳神経		
	第5回	脳神経のみかた		
	第6回	脳の外観		
	第7回	脳の各論 1		
	第8回	脳の各論 2		
	第9回	脳の各論 3		
	第10回	脳神経核 1		
	第11回	脳神経核 2		
	第12回	脳神経核 3 伝導路 1		
	第13回	伝導路 2		
	第14回	髄膜 血管		
	第15回	まとめ		
教科書		病気が見える⑦脳・神経		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		解剖学Ⅳ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		蔵元秀一	科目副担当	
目 標	総合	正常な生体の構造を知る。		
	行動	1. 筋の名称が言える。2. 筋の所在箇所が説明できる。3. 各筋が骨のどこから起こり、停止しているか。		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション 総論（起始・停止・運動・作用・筋の分類）		
	第2回	総論 2 筋の補助装置、筋の生理的作用について		
	第3回	総論 3（筋による関節運動の種類、筋の収縮種類）		
	第4回	各論 1 上肢帯筋肉について		
	第5回	各論 2 上腕の筋について		
	第6回	各論 3 前腕の筋について		
	第7回	各論 4 手の筋肉について		
	第8回	各論 5 骨盤帯の筋肉について		
	第9回	各論 6 大腿の筋肉について		
	第10回	各論 7 下腿の筋肉について		
	第11回	各論 8 頭頸部の筋肉について		
	第12回	各論 9 胸部・腹部の筋肉について		
	第13回	各論10 背部の筋肉について		
	第14回	まとめ①		
	第15回	まとめ②		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第5版		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生理学 I		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		細川浩	科目副担当	
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	生理学とは ホメオスタシスの重要性		
	第2回	細胞の化学反応 酵素とその機能		
	第3回	核酸とタンパク質の合成 膜変位の細胞興奮		
	第4回	細胞膜の構造 細胞膜の機能		
	第5回	内部環境・外部環境バランス ホメオスタシス		
	第6回	栄養の消化と吸収		
	第7回	食道 胃の消化作用		
	第8回	小腸 膵液 胆汁		
	第9回	空腸 回腸		
	第10回	膵臓 胆のう機能 肝臓機能		
	第11回	呼吸と血液のはたらき		
	第12回	呼吸のメカニズム		
	第13回	呼吸気量		
	第14回	酸素・二酸化炭素の運搬		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座10版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生理学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		細川浩	科目副担当	
目 標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	呼吸の病態生理		
	第2回	血液の組織・機能		
	第3回	酸素解離曲線		
	第4回	消化と吸収		
	第5回	貧血と赤血球増加症		
	第6回	血小板		
	第7回	血液の凝固		
	第8回	体温調節		
	第9回	体温調節		
	第10回	生体防御		
	第11回	心臓弁の役割		
	第12回	興奮の伝導		
	第13回	心臓の収縮 心周期		
	第14回	心音と心雑音		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座11版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		生理学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		細川浩	科目副担当	
目標	総合	人体の基本的機能を理解する。		
	行動	0		
講義計画	第1回	血圧 補助ポンプ 脈波と脈拍		
	第2回	血圧の調節		
	第3回	微小循環と血流		
	第4回	循環器の病態生理		
	第5回	腎臓の機能		
	第6回	ヘレンループ		
	第7回	排尿路 尿の輸送と貯蔵		
	第8回	体液の調節 酸塩基平衡		
	第9回	内臓機能の調節 自律神経系		
	第10回	内分泌と外分泌		
	第11回	内分泌各論		
	第12回	膵臓		
	第13回	内分泌各論		
	第14回	ホルモンの調節		
	第15回	まとめ		
教科書		系統看護学講座12版		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動学 I		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		福田聡史	科目副担当	
目 標	総合	基礎運動学における身体運動の機構を科学的に分析する知識や物理学に基づく生体力学、運動		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	運動学とは？		
	第2回	力学と身体運動		
	第3回	運動の表わし方		
	第4回	運動の法則		
	第5回	仕事と力学的エネルギー		
	第6回	剛体に働く力		
	第7回	骨の構造と機能		
	第8回	関節の構造と機能		
	第9回	腱の構造と機能		
	第10回	靱帯の構造と機能		
	第11回	骨格筋		
	第12回	神経筋接合部と神経筋伝達		
	第13回	筋収縮のメカニズム		
	第14回	神経系（概要のみ）		
	第15回	総合まとめ		
教科書		基礎運動学第6班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		福田聡史	科目副担当	
目 標	総合	上肢帯、上肢、体幹、下肢を構成する骨、筋、靱帯その他の軟部組織の構造を理解し、人体が		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	顔面、上肢帯と上肢の運動		
	第2回	肩関節		
	第3回	肘関節と前腕の運動		
	第4回	手関節と手の運動		
	第5回	体幹の運動		
	第6回	頸椎・胸椎・胸郭の運動		
	第7回	腰椎の運動		
	第8回	下肢帯と股関節の筋と運動について		
	第9回	膝関節の運動について		
	第10回	足関節の動きについて		
	第11回	足アーチについて		
	第12回	姿勢制御について		
	第13回	歩行と走行①		
	第14回	歩行と走行②		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第7班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動学Ⅲ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		安田知子	科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーション専門職として「下肢の運動」について理解し、特に「姿勢」「歩行」「走		
	行動	理学療法の対象となる体の動きについて、運動学の用語を用いて説明できるようになる人の動きを「姿		
講 義 計 画	第1回	総論 運動学に必要な基本的な知識の整理		
	第2回	下肢帯と下肢の運動Ⅰ 股関節①		
	第3回	股関節②		
	第4回	下肢帯と下肢の運動Ⅱ 膝関節①		
	第5回	膝関節②		
	第6回	下肢帯と下肢の運動Ⅲ 足関節・足部①		
	第7回	足関節・足部②		
	第8回	足関節下肢帯と下肢の運動のまとめ		
	第9回	姿勢 重心とアライメント		
	第10回	姿勢の分類		
	第11回	歩行 歩行周期		
	第12回	歩行分析		
	第13回	走行 走行と歩行の違い		
	第14回	運動学的分析		
	第15回	まとめ		
教科書		基礎運動学第8班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		人間発達学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		井黒・ノウス	科目副担当	
目 標	総合	1.正常発達を知る。1. 身体の形態発達の過程を理解する。2. 新生児期や乳幼児期の運動と		
	行動	1.正常発達を知ることができる。2.正常姿勢反射を知ることができ、異常な姿勢反射につなげることが		
講 義 計 画	第1回	人間発達とは・運動理論について		
	第2回	運動機能について①（胎生期・新生児期）		
	第3回	運動機能について②（乳児期）		
	第4回	運動機能について（学童期）		
	第5回	運動機能について（青年期～成人期）		
	第6回	運動機能について（高齢期）		
	第7回	運動機能の発達 5（青年期～高齢期）		
	第8回	認知機能の発達		
	第9回	情緒の発達		
	第10回	社会性の発達		
	第11回	パーソナリティーの発達		
	第12回	ライフステージにおける機能別発達について①		
	第13回	ライフステージにおける機能別発達過程について②		
	第14回	発達検査とは		
	第15回	まとめ		
教科書		小児理学療法学テキスト		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		病理学総論	
履修時期		2年次	単位/時間数
科目区分		専門基礎分野	必修区分
科目主担当		比嘉 盛治	科目副担当
目 標	総合	病気のメカニズムを学ぶ。1. 病気の発生機序を説明できる。2. 病気の回復メカニズムを説明できる。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	病理学の領域	
	第2回	細胞と組織、その障害	
	第3回	再生と修復循環器障害 A	
	第4回	循環器障害 B (リンパ液)	
	第5回	炎症免疫	
	第6回	感染症代謝異常	
	第7回	老化と老年病新生児の病理先天異常	
	第8回	腫瘍	
	第9回	腫瘍(続き)	
	第10回	生命の危機	
	第11回	循環器・呼吸器、歯・口腔系	
	第12回	消化器系・内分泌系造血器系・腎・尿路系生殖系	
	第13回	乳腺、脳神経系運動器系	
	第14回	感覚器系	
	第15回	期末試験テスト	
教科書		資料配布	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		内科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		大山拓真	科目副担当	
目標	総合	1. 主要な内科疾患の症状や発生機序について説明できる。2. 主要な内科疾患の予後について説明できる。		
	行動	0		
講義計画	第1回	1. 内科学の概念、学ぶ意思 2. 内科診断と治療の実際A鑑別診断Bカルテの書き方		
	第2回	C診断法 C食欲不振D臨床検査 D悪心嘔吐E内科的治療 E易感染F意識障害 3 病理		
	第3回	G眩暈HむくみIレイノー現象J頭痛Kリンパ腫脹LショックMPT、OTの関連4循環器		
	第4回	D循環器疾患各論 1. HTN 2. HypoTN 3. IHB 4. 心筋疾患 5. 弁膜症 6. 先天性		
	第5回	5 呼吸器疾患A肺の解剖と生理B徴候と病態生理C臨床検査初見D疾患各論E呼吸リハ		
	第6回	6 消化管疾患A解剖生理B徴候と病態生理C検査法D各論EPT・OTとの関連		
	第7回	7 肝胆膵疾患A肝臓B胆道系C膵臓D腹膜E肝胆疾患検査F肝胆疾患各論G膵疾患各論H		
	第8回	8 血液、造血器疾患E各論 2、出血性疾患 3、血痰性要因 4、白血病・腫瘍性疾患FF		
	第9回	9 代謝性疾患A代謝調節の仕組みB疾患各論 1 糖尿病 2 インスリノーマ 3 脂質異常症		
	第10回	1 0 内分泌疾患A総論Bホルモンの解剖・生理C検査法D疾患各論 1 視床下部症候群 2		
	第11回	1 1 腎・泌尿器疾患A解剖・生理B腎疾患の病態・生理C腎尿路系の検査D疾患各論		
	第12回	1 2 アレルギー疾患、膠原病と類縁疾患、免疫不全症A免疫系の働きBアレルギー疾		
	第13回	1 3 感染症A総論B各論CPT・OTとの関連 1 4 栄養学付録・知識		
	第14回	まとめ		
	第15回	まとめ		
教科書		標準理学療法作業療法学専門基礎分野 第4版 内科学		
授業方法		一斉講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーション関連医学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		安田知子	科目副担当	
目 標	総合	健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	総論① オリエンテーション講義の流れ、総論、検査の目的・意義・方法を理解する		
	第2回	理学療法管理学の源流②		
	第3回	病院の分類と組織③		
	第4回	専門職とチームケア④		
	第5回	社会保障のしくみ⑤		
	第6回	医療保険制度⑥		
	第7回	介護保険制度⑦		
	第8回	職業倫理⑧グループワーク		
	第9回	業務管理⑨グループワーク		
	第10回	業務・情報管理⑩		
	第11回	感染症管理⑪		
	第12回	教育管理⑫		
	第13回	リスク管理⑬		
	第14回	リスク管理⑭		
	第15回	総まとめ各自総まとめを整理する		
教科書		リハベーシック 薬理学・臨床薬理学系統看護学講座 栄養学医学書院 わかりやす		
授業方法		一斉講義		
評価方法		期末試験・小テスト		
履修 アドバイス				

科目名		整形外科科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	安田知子	科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーションの対象である運動器疾患の代表として整形外科疾患を理解する。	
	行動	運動器疾患である整形外科の診断と治療について述べられるようになる。それぞれの疾患の概要から	
講 義 計 画	第1回	整形外科科学総論/整形外科とは、整形外科科学とはなにか	
	第2回	総論 診断学診断とはなにか 問診・視診・触診・画像診断	
	第3回	総論 治療学保存療法と手術療法	
	第4回	疾患総論軟部組織損傷 1 軟部組織損傷(軟部組織、皮膚、筋・腱、血管)～熱傷	
	第5回	疾患総論 骨関節の損傷総論 骨折・捻挫・靱帯損傷・脱臼	
	第6回	疾患学Ⅰ 上肢肩関節	
	第7回	疾患学Ⅰ 上肢肘関節手関節手	
	第8回	疾患学Ⅰ 下肢股関節	
	第9回	疾患学Ⅱ 下肢膝関節	
	第10回	疾患学Ⅰ 下肢足関節疾患	
	第11回	疾患学Ⅰ 脊椎・脊髄疾患腰椎椎間板ヘルニア脊髄損傷スマホ首	
	第12回	疾患学Ⅱ リウマチ/自己免疫疾患リウマチ悪性リウマチ若年性突発性関節炎感染症	
	第13回	疾患学Ⅱ 骨系統疾患～代謝性疾患骨形成不全症骨粗鬆症	
	第14回	疾患学Ⅱ 骨腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍末梢神経損傷慢性疼痛疾患	
	第15回	疾患学Ⅱ スポーツ医学 スポーツ整形外科と障がい者スポーツ小児整形外科骨端線	
教科書		整形外科科学テキスト[改訂第4版] 南江堂	
授業方法		一斉講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		神経内科学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 三和子	科目副担当	
目標	総合	神経内科学の疾患を理解する	
	行動	脳の血管の解剖と整理学的特徴を理解する。脳血管障害の分類と疫学を学ぶ。各種脳血管障害の成因、	
講義計画	第1回	オリエンテーション神経系の構成と発生脳区分と局所徴候	
	第2回	脳血管障害について分類出血部位の頻度治療について	
	第3回	脳出血(各論)被殻出血視床出血	
	第4回	脳出血(各論)皮質下出血橋出血	
	第5回	脳出血について(各論)橋出血②	
	第6回	脳出血について(各論)くも膜下出血について正常圧水頭症について	
	第7回	脳梗塞について脳塞栓症脳血栓症	
	第8回	アテローム血栓性脳梗塞について	
	第9回	ラクナ梗塞について	
	第10回	脳解剖見学実習	
	第11回	心原性脳塞栓症について	
	第12回	画像所見	
	第13回	脳解剖見学実習	
	第14回	CT・MRI画像診断	
	第15回	まとめ	
教科書		神経内科学テキスト[改訂第4版] 南江堂	
授業方法		一斉講義・グループワーク	
評定方法		期末試験・課題	
履修 アドバイス			

科目名		精神医学		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		OT教員	科目副担当	
目 標	総合	精神医学の概要を理解する		
	行動	精神症状について理解する精神医療を理解する疾患について理解する		
講 義 計 画	第1回	総論		
	第2回	精神機能とその異常		
	第3回	精神医療と社会		
	第4回	統合失調症		
	第5回	認知症		
	第6回	てんかん		
	第7回	精神医学的診察と診断		
	第8回	症状精神病		
	第9回	発達障害		
	第10回	物質関連商連		
	第11回	気分障害		
	第12回	精神症性障害		
	第13回	脳科学と精神医学		
	第14回	パーソナリティ障害		
	第15回	精神的治療学		
教科書		標準精神医学 第8班		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		小児科学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		知花 愛里	科目副担当	
目 標	総合	1. 主要な小児疾患の症状、予後、治療方法を知る。2. 小児疾患全般を理解し、リハビリ		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	発達について		
	第2回	新生児について		
	第3回	3-4カ月の発達		
	第4回	6-7カ月の発達		
	第5回	8-12カ月の発達		
	第6回	神経発達症について		
	第7回	1才の発達について		
	第8回	2才の発達について。発達のまとめ		
	第9回	3才の発達について		
	第10回	4才の発達について		
	第11回	5才の発達について		
	第12回	7-11才の発達について		
	第13回	11-14才の発達について		
	第14回	14-17才の発達について		
	第15回	期末試験		
教科書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 P T O T 小児科学		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーション概論Ⅰ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		川上幸司	科目副担当	
目標	総合	医療以外の範囲も含めたリハビリテーションの概念、歴史、世界・日本での発展から現在の状況		
	行動	0		
講義計画	第1回	リハビリテーション概論① オリエンテーション 講義の流れ、総論（概念・理念・		
	第2回	リハビリテーション概論② 健康と障害の概念と分類資料参照		
	第3回	リハビリテーション概論③ 障害の心理的・社会的視点資料参照		
	第4回	リハビリテーション概論④ ヒトの発達と評価（特に小児）資料参照		
	第5回	リハビリテーション概論⑤ リハビリテーション過程資料参照		
	第6回	リハビリテーション概論⑥ リハビリテーションの諸段階資料参照		
	第7回	リハビリテーション概論⑦ 医療とリハビリテーション専門職種と役割資料参照		
	第8回	リハビリテーション概論⑧ チームアプローチ資料参照		
	第9回	リハビリテーション概論⑨ ADL,QOLの概念と評価法資料参照		
	第10回	リハビリテーション概論⑩ 医療・リハビリテーション医療（医療機関で行うリハビ		
	第11回	リハビリテーション概論⑪ 地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア資料参照		
	第12回	リハビリテーション概論⑫ 高齢者・健康対策と少子化対策資料参照		
	第13回	リハビリテーション概論⑬ 医療・福祉制度資料参照		
	第14回	リハビリテーション概論⑭ 医療法・福祉関係法規資料参照		
	第15回	総まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評価方法		期末試験・グループワーク		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーション概論Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門基礎分野	必選区分	必修
科目主担当		米須正男	科目副担当	
目 標	総合	地域理学療法について理解できる		
	行動	1、地域の環境を理解する 2、医療・介護の制度を理解する 3、地域包括ケアを理解する		
講 義 計 画	第1回	リハビリテーションの概念		
	第2回	健康と障がいの概念		
	第3回	障がいの心理的社会的概念		
	第4回	ヒトの発達と評価		
	第5回	リハビリテーション過程		
	第6回	リハビリテーションの諸段階		
	第7回	医療とリハビリテーション専門職と役割		
	第8回	チームアプローチ		
	第9回	ADL.QOLの概念		
	第10回	医療と義肢装具		
	第11回	地域リハビリテーション		
	第12回	高齢者と少子化		
	第13回	医療・福祉制度		
	第14回	関連法規		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験・グループワーク		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法概論		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		米須正男	科目副担当	
目標	総合	理学療法概念を理解する		
	行動	理学療法専門科目全般の概要と関連を理解し、理学療法士にふさわしい心構えと能力を体得する。		
講義計画	第1回	理学療法概念と歴史		
	第2回	理学療法士の法律		
	第3回	理学療法士の関連法規		
	第4回	理学療法の意義と役割		
	第5回	理学療法の対象		
	第6回	理学療法の方法		
	第7回	運動療法・物理療法		
	第8回	理学療法士の組織		
	第9回	理学療法士教育		
	第10回	医療・保健分野の理学療法		
	第11回	地域リハビリテーションと理学療法		
	第12回	医療事故とリスクマネジメント		
	第13回	個人情報管理と対象の権利		
	第14回	臨床教育の実践		
	第15回	まとめ		
教科書		配布資料		
授業方法		一斉講義・グループワーク		
評定方法		期末試験・グループワーク		
履修 アドバイス				

科目名		臨床運動学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		福田聡史	科目副担当	
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】基礎バイオメカニクスを学び、人の正常動作メカニズムを説明できる		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	バイオメカニクスの基本事項 1) 重心の考え方 2) 加速度と力の関係 3) 床反力とは		
	第2回	バイオメカニクスの基本事項 1) 床反力鉛直方向成分 立ち上がり動作とは		
	第3回	バイオメカニクスの基本事項 1)		
	第4回	立位と歩き始め		
	第5回	立位と歩き始め実技：麻痺側の歩行の介助と訓練		
	第6回	歩行：一般的な歩行		
	第7回	歩行：歩行中の重心と支持基底面		
	第8回	歩行：歩行中の床反力		
	第9回	動作を可能にするメカニズム 3つのロッカー機能・ヒールロッカー・アングルロッカー		
	第10回	衝撃吸収のメカニズム		
	第11回	歩行中の関節モーメント		
	第12回	代表的な異常歩行		
	第13回	姿勢と動作		
	第14回	変形性膝関節症の機能評価		
	第15回	まとめ		
教科書		観察による歩行分析		
授業方法		講義、実技、グループワークなど		
評価方法		講義、出席、定期試験、小テストなど		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学 I		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		崎濱祐介	科目副担当	
目標	総合	運動療法の中の各種運動の理論を学び、基本的な運動療法の実技を習得する。		
	行動	0		
講義計画	第1回	運動療法の概念(定義、目的、対象、原理)教科書概観レポート発表振り分け		
	第2回	関節可動域制限に対する運動療法①可動域制限因子・治療のためのアプローチ・スタ		
	第3回	関節可動域制限に対する運動療法②動的ストレッチ、PNFストレッチ、IDストレッチ		
	第4回	関節可動域制限に対する運動療法③関節モビライゼーション(滑り、転がり、構成運動)		
	第5回	筋力低下に対する運動療法①筋張力に影響する因子、筋力トレーニングの原則<レポ		
	第6回	筋力低下に対する運動療法②トレーニングの分類、進め方OKC・CKC<レポート発表		
	第7回	持久力低下に対する運動療法①定義・エネルギー供給システム・持久力トレーニング		
	第8回	筋持久力低下に対する運動療法②至適運動強度・効果<レポート発表>パーキンソン		
	第9回	バランス障害に対する運動療法分類・捉え方・評価のポイント・理論・実際<レポ		
	第10回	協調性運動障害に対する運動療法①運動の発現・協調性運動障害の分類・運動失調の		
	第11回	協調性運動障害に対する運動療法②代表的な運動療法<レポート発表>サルコイドー		
	第12回	姿勢障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際<レポート発表>小児		
	第13回	歩行障害に対する運動療法分類・評価のポイント・理論・実際ビデオによる動作観察		
	第14回	歩行障害に対する運動療法ビデオによる動作観察		
	第15回	まとめ		
教科書		運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明編		
授業方法		教科書の内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディや演習などを通して学習す		
評定方法		本講義の記述試験(90%)レポート発表(10%)の割合で総合的に評価を行う。		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学Ⅱ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	古堅貴也	科目副担当	
目 標	総合	整形外科分野の疾患に対する評価及び運動療法について学ぶ。	
	行動	0	
講 義 計 画	第1回	運動療法学Ⅱ 概論ロコモティブシンドロームロコモテスト	
	第2回	骨折 評価と運動療法（1）運動器リハビリテーション施設基準と診療報酬	
	第3回	骨折 評価と運動療法（2）RICE処置 ギプス固定	
	第4回	腰部 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症）	
	第5回	腰部 評価と運動療法（2） 整形外科的検査(腰痛症) 表書き込み骨折 評価と運動療法	
	第6回	胸郭出口症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）	
	第7回	頸肩腕症候群 評価と運動療法整形外科的検査（胸郭出口症候群）表書き込み整形外科	
	第8回	股関節 評価と運動療法（1）整形外科的検査（頸肩腕症候群）表書き込み整形外科	
	第9回	股関節 評価と運動療法（2）整形外科的検査(股関節) 表書き込み	
	第10回	膝関節疾患 評価と運動療法（1）整形外科的検査(膝関節)	
	第11回	膝関節疾患 評価と運動療法（2）整形外科的検査(膝関節) 表書き込み	
	第12回	RA 評価と運動療法（1）整形外科的検査（腰痛症、胸郭出口症候群、頸肩腕症候群）	
	第13回	RA 評価と運動療法（2）RA体操	
	第14回	スポーツ外傷運動療法の原理・指導法と禁忌運動器疾患の理学療法テクニック（DVD）	
	第15回	総まとめ	
教科書		理学療法評価学	
授業方法		講義、実技	
評価方法		筆記試験	
履修 アドバイス			

科目名		運動療法学Ⅲ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		大山将平	科目副担当	
目 標	総合	内部障害に対する評価及び運動療法について学ぶ。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション		
	第2回	循環器(内科系) 理学療法		
	第3回	循環器(外科系) 理学療法		
	第4回	末梢循環障害理学療法		
	第5回	腎機能障害の理学療法		
	第6回	呼吸器障害の理学療法①		
	第7回	呼吸器障害の理学療法②		
	第8回	呼吸器障害の理学療法③		
	第9回	ICUの理学療法/吸引		
	第10回	糖尿病の理学療法①		
	第11回	糖尿病の理学療法②		
	第12回	がんの理学療法①		
	第13回	がんの理学療法②		
	第14回	BLS/患者教育		
	第15回	まとめテスト		
教科書		資料配布		
授業方法		講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学Ⅳ	
履修時期		2年次	単位/時間数 2単位/60時間
科目区分		専門分野	必修区分 必修
科目主担当		安田知子	科目副担当
目 標	総合	理学療法の対象として、中神経系疾患であり、整形外科疾患でもある脊髄損傷の障害を理解する。	
	行動	急性期から維持期（生活適応期）に至るまでの脊髄損傷の主な障害について述べられるようになる自立	
講 義 計 画	第1回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。	
	第2回	脊髄損傷 総論 映画「ウィニングパス」を参考に、脊髄損傷の問題を考える。	
	第3回	疫学調査 受傷機転と転帰	
	第4回	評価① 急性期の評価 IsCos Zancolli	
	第5回	評価② 不全損傷の分類評価	
	第6回	呼吸機能障害	
	第7回	自律神経障害	
	第8回	膀胱直腸障害	
	第9回	評価③ 症例検討	
	第10回	脊髄損傷者の動作学 起居動作から運動学を学ぶ リスク管理 褥瘡とバランス機能	
	第11回	ADL（1） ADL評価：SCIM	
	第12回	ADL（2） 脊髄損傷者の実際	
	第13回	ADL（3）	
	第14回	性機能障害	
	第15回	まとめ	
教科書		岩崎 洋編：脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版、東京、文光堂、2014年	
授業方法		講義、実技	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		運動療法学Ⅴ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		東江実起	科目副担当	
目標	総合	・正常発達の理解・脳性麻痺の理学療法評価・脳性麻痺の理学療法		
	行動	脳性まひの分類を理解し、全体像を捉えることができる。		
講義計画	第1回	オリエンテーション小児理学療法の概要療育業政サービス教育		
	第2回	正常運動発達0～3カ月		
	第3回	正常運動発達4～6カ月7～9カ月		
	第4回	正常運動発達10～12カ月発達検査ダウン症		
	第5回	子どもの遺伝性疾患DMD児、年齢に応じた理学療法介入その他の遺伝性疾患		
	第6回	子どもの整形外科疾患二分脊椎ヘルテス骨形成不全		
	第7回	脳性麻痺 総論		
	第8回	脳性麻痺 総論痙直型		
	第9回	脳性麻痺 総論痙直型		
	第10回	ケーススタディ		
	第11回	主要問題(両まひケーススタディ) から理学療法を考える		
	第12回	脳性麻痺アテトーゼ型		
	第13回	重症心身障害児(者)		
	第14回	発達障害		
	第15回	期末試験		
教科書		小児理学療法学テキスト		
授業方法		講義、実技		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		運動療法学VI	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	米須正男	科目副担当	
目 標	総合	脳血管障害の全体像を捉え問題点を抽出し、それに対する運動療法を考案できるようになる。	
	行動	障害に対して検査項目を挙げ、実施することができる。	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション講義目標・方法、評価方法、講義内容説明	
	第2回	脳血管障害の概論・症例検討Ⅰ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第3回	症例検討Ⅰ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第4回	症例検討Ⅰ 動画（動作観察、起き上がり・立ち上がり動作評価、問題点の抽出）	
	第5回	症例検討Ⅰ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第6回	症例検討Ⅱ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第7回	症例検討Ⅱ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第8回	症例検討Ⅱ 動画（動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出）	
	第9回	症例検討Ⅱ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第10回	症例検討Ⅲ（症例情報①、用語検索、ディスカッション）	
	第11回	症例検討Ⅲ 症例情報②、用語検索、ディスカッション、検査項目列挙	
	第12回	症例検討Ⅲ 動画（動作観察、歩行動作評価、問題点の抽出）	
	第13回	症例検討Ⅲ 問題点の抽出、運動療法の考え方	
	第14回	まとめ① 脳卒中のリハビリテーション 発表	
	第15回	まとめ② 脳卒中のリハビリテーション 発表	
教科書		千住秀明 監：理学療法学テキストⅣ 中枢神経疾患の理学療法 第2版	
授業方法		講義、グループワーク中心に実施	
評定方法		小テスト、グループ発表、試験	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーションセミナーⅠ		
履修時期		1年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		蔵元秀一	科目副担当	
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。		
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。		
講 義 計 画	第1回	国家試験の問題形式を理解する		
	第2回	問題用紙を教科書を用いて解答を行う		
	第3回	国家試験の問題形式を理解する		
	第4回	解答解説をグループで実施する		
	第5回	国家試験の問題形式を理解する		
	第6回	解答解説を個人で実施する		
	第7回	解答解説をグループで実施する		
	第8回	解答解説を報告する		
	第9回	国家試験の問題形式を理解する		
	第10回	解答解説を個人で実施する		
	第11回	解答解説をグループで実施する		
	第12回	解答解説を報告する		
	第13回	配布問題集の説明をグループ内で実施する		
	第14回	配布問題集の解答解説を実施する		
	第15回	総まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		小テスト、グループ発表、試験		
履修 アドバイス				

科目名		リハビリテーションセミナーⅡ	
履修時期	2年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	蔵元秀一	科目副担当	
目 標	総合	国試問題を解くための基礎科目の基盤を作る。	
	行動	国家試験の問題形式を知り用語や文章を理解し、問題の解答に対して調べ学習ができるようになる。	
講 義 計 画	第1回	国試対策 末梢神経	
	第2回	末梢神経 解答・解説 グループワークで行う	
	第3回	国試対策 中枢神経	
	第4回	中枢神経 解答・解説をグループにて行う	
	第5回	国試対策 反射・筋活動・感覚	
	第6回	反射・筋活動・感覚 解答と解説をグループワークにて行う	
	第7回	国試対策 呼吸	
	第8回	呼吸 解答・解説をグループワークにて行う	
	第9回	国試対策 循環	
	第10回	循環 解答・解説をグループワークにて行う	
	第11回	国試対策 消化器	
	第12回	消化器系 解答・解説をグループワークにて行う	
	第13回	国試対策 排尿	
	第14回	排尿 解答・解説をグループワークにて行う	
	第15回	まとめ	
教科書		基礎固めヒント式トレーニング 南江堂	
授業方法		講義、グループワーク	
評定方法		出席、課題、グループ発表	
履修 アドバイス			

科目名		リハビリテーションセミナーⅢ		
履修時期		3年次	単位/時間数	4単位/120時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		蔵元秀一	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学・臨床医学を理解する		
	行動	理学療法概論・技術論の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	国試対策		
	第2回	国試対策		
	第3回	国試対策		
	第4回	国試対策		
	第5回	国試対策		
	第6回	国試対策		
	第7回	国試対策		
	第8回	国試対策		
	第9回	国試対策		
	第10回	国試対策		
	第11回	国試対策		
	第12回	国試対策		
	第13回	国試対策		
	第14回	国試対策		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		講義、グループワーク		
評定方法		出席、課題、グループ発表		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法管理学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	池城・普天間	科目副担当	
目 標	総合	リハビリテーション科を専門とする職場の管理、組織化、業務管理、教育について知る。	
	行動	「知識・技術」とともに「柔軟な思考」と「豊かな発想」、そしてそれらを効果的に操る「マネイジメ	
講 義 計 画	第1回	リハビリテーション科における管理とは	
	第2回	自らが成長しうることへの支援とは	
	第3回	職員配置と業務の組織化	
	第4回	質的管理のための体制づくり	
	第5回	病棟・施設業務管理	
	第6回	部署内の情報伝達の工夫	
	第7回	院内活動への参加	
	第8回	年間計画に基づく個人目標の管理	
	第9回	リハビリテーション専門職のインセンティブ	
	第10回	リハビリテーション専門職のストレスチェック	
	第11回	医療専門職の継続教育	
	第12回	リーダーシップとマネイジメント	
	第13回	リハビリテーション科のリーダーとは	
	第14回	リハビリテーション科の効果的な収益管理	
	第15回	まとめ	
教科書		リハビリテーション管理・運営 実践ガイドブック メジカルビュー社	
授業方法		講義、グループワーク、調べ学習	
評定方法		講義・グループワーク・調べ学習・期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		理学療法評価学 I		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		崎濱祐介	科目副担当	
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技の		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講義計画	第1回	総論形態測定		
	第2回	関節可動域測定		
	第3回	肩関節		
	第4回	肘		
	第5回	手関節		
	第6回	股関節		
	第7回	膝関節		
	第8回	足部		
	第9回	肩甲骨		
	第10回	体幹		
	第11回	頸部		
	第12回	周径		
	第13回	症例検討		
	第14回	実技確認		
	第15回	まとめ		
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社		
授業方法		講義・実技・グループワークなど		
評定方法		期末試験・実技試験		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法評価学Ⅱ		
履修時期		1年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		古堅貴也	科目副担当	
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技の		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	総論・筋力測定		
	第2回	肩甲帯		
	第3回	肩関節		
	第4回	肘		
	第5回	手関節		
	第6回	股関節		
	第7回	膝関節		
	第8回	足部		
	第9回	肩甲骨		
	第10回	体幹		
	第11回	頸部		
	第12回	周径		
	第13回	症例検討		
	第14回	実技確認		
	第15回	まとめ		
教科書		新・徒手筋力検査法		
授業方法		講義・実技・グループワークなど		
評定方法		期末試験・実技試験		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法評価学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	川上幸司	科目副担当	
目標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。又、検査手技の	
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。	
講義計画	第1回	理学療法評価学Ⅲ ①オリエンテーション 問診講義の流れ、総論、検査の目的・意	
	第2回	理学療法評価学Ⅲ② 疼痛検査の意義・目的・方法を実践出来る資料参照	
	第3回	理学療法評価学Ⅲ③ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第4回	理学療法評価学Ⅲ④ 協調性検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第5回	理学療法評価学Ⅲ⑤ 知覚検査の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第6回	理学療法評価学Ⅲ⑥ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第7回	理学療法評価学Ⅲ⑦ 知覚検査を実践出来る資料参照	
	第8回	理学療法評価学Ⅲ⑧ 片麻痺検査の意義・方法を実践出来る資料参照	
	第9回	理学療法評価学Ⅲ⑨ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第10回	理学療法評価学Ⅲ⑩ 片麻痺機能検査を実践出来る資料参照	
	第11回	理学療法評価学Ⅲ⑪ SIASの意義・方法を実践出来る資料参照	
	第12回	理学療法評価学Ⅲ⑫ SIASの検査を実践出来る資料参照	
	第13回	理学療法評価学Ⅲ⑬ BBS、TUG、10m歩行速度の意義・目的・検査方法を実践出来る資料参照	
	第14回	理学療法評価学Ⅲ⑭ 症例に則した評価法の選択(ケーススタディ) 資料参照	
	第15回	総まとめ実技確認 感覚・協調性・片麻痺機能検査の実施が出来る各自まとめを整理	
教科書		理学療法評価学 改訂第5版 金原出版社	
授業方法		自主学習を主体として講義を進行する	
評定方法		実技及び定期試験、小テストなど	
履修 アドバイス			

科目名		理学療法評価学Ⅳ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		米須正男	科目副担当	
目 標	総合	理学療法評価学の意義と目的を理解し、自分の言葉で説明出来るようになる。又、検査手技の		
	行動	検査理由を理解し、被検者に説明できる。検査をアドバイスなしに実施することができる。		
講 義 計 画	第1回	各論① 深部腱反射・病的反射		
	第2回	各論② 深部腱反射・病的反射		
	第3回	各論③ 深部腱反射・病的反射		
	第4回	各論④ 筋トーヌス反射		
	第5回	各論⑤ 筋トーヌス反射		
	第6回	各論⑥ 姿勢反射検査		
	第7回	各論⑦ 姿勢反射検査		
	第8回	各論⑧ 姿勢反射検査		
	第9回	各論⑨ 脳神経検査		
	第10回	各論⑩ 脳神経検査		
	第11回	各論⑪ 高次脳機能検査		
	第12回	各論⑫ 高次脳機能検査		
	第13回	各論⑬ 高次脳機能検査		
	第14回	全体のまとめ①確認テストなど		
	第15回	全体のまとめ②確認テストのフィードバック		
教科書		松澤正、江口勝彦：理学療法評価学 改訂第6版 金原出版株式会社医療情報科学研		
授業方法		講義・実技・グループワークなど		
評価方法		定期的に行われる単元テスト及び確認テスト、出席点や学習課題を総合的に評価する		
履修 アドバイス				

科目名		物理療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		崎濱祐介	科目副担当	
目 標	総合	安全、効果的に物理療法を実施することができる		
	行動	1. 理学療法分野における位置づけ、意義等を理解する。2. 生理学的背景を併せて理解し、適応・禁		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション、総論①		
	第2回	温熱療法について①		
	第3回	温熱療法について②		
	第4回	寒冷療法について①		
	第5回	牽引療法について		
	第6回	電気療法について①		
	第7回	電気療法について②		
	第8回	光線療法について①		
	第9回	光線療法について②		
	第10回	水治療について		
	第11回	水治療について		
	第12回	演習(ケーススタディー)		
	第13回	演習(ケーススタディー)		
	第14回	演習(ケーススタディー)		
	第15回	まとめ		
教科書		資料配布		
授業方法		講義、実技演習、グループワーク		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		日常生活技術論		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		ノウス真紀	科目副担当	
目 標	総合	【一般教育目標(GIO)】ADLの概念、内容、基本的な評価について説明することができ、付		
	行動	行動目標(SBO)】ADLについての基礎的な知識や動作分析のポイント、必要な評価方法について学習		
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション シラバス説明第1回講義 ライフステージ(自身を俯瞰しながら		
	第2回	ADLと障害・障害分類(身体障害者福祉法、介護保険制度)とICIDH、ICF・平均寿		
	第3回	ICFとQOL・障害構造:医学モデル、障害モデル、国際生活機能分類・QOLの構造		
	第4回	ADLと運動学・運動の記録と解析(相分けと静動部位の記録)の実施(グループ毎		
	第5回	ADLと運動学2・前回で確認した内容をグループ別に発表(グループ毎に課題選択し		
	第6回	ADL評価・評価における日常生活動作の概念より【概念】・人間の行動の3側面から		
	第7回	(症例検討)片麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足してい		
	第8回	(症例検討)脊髄損傷のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して		
	第9回	(症例検討)脳性麻痺のADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案(不足して		
	第10回	(症例検討)慢性関節リウマチのADL・初期症例情報をICF上に並べる・仮説立案		
	第11回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL・初期症例情報をICF上に並べる・		
	第12回	(症例検討)人工関節置換術後・下肢切断のADL2・初期症例情報をICF上に並べる		
	第13回	まとめ1・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク		
	第14回	まとめ2・期末テスト素案より、テキスト上でのキーワード確認(グループ別)・ク		
	第15回	まとめ3 期末テスト・基礎知識確認・症例選択問題		
教科書		標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院ケース		
授業方法		グループに別れて、お題に対して話し合いながら共通語を作っていきましょう		
評価方法		学期末テストを実施。		
履修 アドバイス				

科目名		理学療法技術論	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	小林/外間	科目副担当	
目 標	総合	PNFの基本理念、原則を理解する。理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、	
	行動	理学療法において重要な骨や筋を触察する技術について、その基本を習得する。	
講 義 計 画	第1回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第2回	・ マニュアルセラピーとは・世界的位置づけ 歴史・体表解診（レイヤー触診 構造触診）	
	第3回	・ 膝関節の構造・膝関節のmobilization	
	第4回	・ 足関節の構造・足関節・脛腓関節のmobilization	
	第5回	・ 肩関節の構造・肩関節のmobilization	
	第6回	・ 肘関節の構造・肘関節のmobilization	
	第7回	PNF哲学、基本原理	
	第8回	PNF肩甲骨のパターンRI、Rep、SR、RS、（座位）	
	第9回	PNF・哲学基本原理の復習・骨盤・上肢	
	第10回	・ 下肢・両上・下肢・カイザー体験記	
	第11回	PNF・上肢パターン・座位でのトレーニング	
	第12回	PNF・下肢のパターン・リラクゼーションテクニック（HR・CR）・Pappy	
	第13回	PNF・座位一立ち上がり・四つ這い・膝立ち・起き上がり	
	第14回	PNF・床からの立ち上がり・歩行・まとめ	
	第15回	mobilizationまとめPNFまとめ	
教科書		理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ	
授業方法		実技を中心に実施	
評価方法		課題及び期末試験、受講状況を加味して総合的に判断する。	
履修 アドバイス			

科目名		神経障害理学療法学	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	金城 三和子	科目副担当	
目 標	総合	神経障害の理解とそのリハビリテーションを理解する。	
	行動	神経障害に対して、適切な評価、治療ができるようになる。	
講 義 計 画	第1回	神経系の機能と構造・定義を理解する。	
	第2回	理学療法の介入方法・アプローチを理解する。	
	第3回	PD症状を理解する。	
	第4回	PDの理論と実際のリハビリテーションを理解する。	
	第5回	PD症例検討・グループワークにてPDの症状を体感する。	
	第6回	ギランバレー症候群の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第7回	SCDの症状を理解する。	
	第8回	SCDの理論と実際を理解する。	
	第9回	SCDの症例検討、SCDのタイプ別リハをグループ別に発表する。	
	第10回	多発性硬化症の症状とリハビリテーションを理解する。	
	第11回	ALSの症状を理解する	
	第12回	ALSの理論と実際を理解する	
	第13回	ALSの症例検討、またタイプ別リハをグループ別に発表する	
	第14回	進行性筋ジストロフィーの症状をリハビリテーションを理解する。	
	第15回	まとめ	
教科書		①神経障害理学療法学 第1版 羊土社 ③病気がみえる 第2版 メディック	
授業方法		講義、課題、グループワーク、実技	
評価方法		期末試験（課題及び実技配点各10）	
履修 アドバイス			

科目名		運動器障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		古堅貴也	科目副担当	
目 標	総合	・運動器疾患に対する疾患別の理学療法を理解する。・各疾患に応じた機能解剖、原因、特徴		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	リモート講義総論構築学的アプローチについて凹凸の法則についてICFの考え方		
	第2回	リモート講義前回のおさらい筋肉痛について骨髄接合部 エンテシス関節軟骨末梢		
	第3回	リモート講義前回のおさらい末梢神経急性末梢神経損傷について皮膚機能骨折・脱臼		
	第4回	リモート講義前回のおさらい臨床でよく診る骨折⑤～大腿骨骨折分類術式からプロト		
	第5回	対面講義臨床でよく診る骨折 足部・脊椎圧迫骨折介達牽引・直達牽引骨粗鬆症につ		
	第6回	対面講義上肢(帯)の骨折発生の機序と症状鎖骨骨折ニア分類・ロビンソン分類等外		
	第7回	対面講義前回のおさらい上腕骨近位骨折その他骨折について分類・術式・リハについ		
	第8回	対面講義股関節疾患の整形外科的テスト紹介・実技脱臼しやすい運動（前方・後方）		
	第9回	7階実技変形性膝関節症について 序章膝蓋骨・膝関節モビライゼーション実技次回		
	第10回	7階実技実技 SLR パトリックオーベルテスト骨盤と膝関節の連鎖膝関節の三次元		
	第11回	7階実技前回の復習膝の内外反ストレステスト 実技TKA・Q角について肩関節障害		
	第12回	7階実技肩関節周囲炎について肩甲胸郭関節モビリゼーション 実技リハビリアプロ		
	第13回	7階実技椎間板原性疼痛非特異的腰痛症腰部脊柱管狭窄症姿勢評価・各種検査項目		
	第14回	特別講演 石塚 光太郎先生（浦添総合病院救急救命センター・整形外科・スポーツ		
	第15回	7階実技変形性股関節症足部疾患についてインソールについて 一部実技まとめ		
教科書		病気が見える⑪運動器・整形外科		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評価方法		期末試験4割、課題レポート3割、出欠席・授業態度(3割)		
履修 アドバイス				

科目名		呼吸・循環器障害理学療法学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		山城 範洋	科目副担当	
目 標	総合	呼吸・循環系の対する運動療法の基本原理と実際について理解する。		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	呼吸リハビリテーション総論		
	第2回	呼吸器疾患の病態		
	第3回	呼吸リハビリテーション評価		
	第4回	酸素療法、薬物治療、呼吸機器 1		
	第5回	酸素療法、薬物療法、呼吸機器 2		
	第6回	周術期の理学療法学		
	第7回	呼吸リハビリテーション維持期		
	第8回	超急性期のリハビリテーション		
	第9回	心臓リハビリテーション総論		
	第10回	循環器の解剖・生理 1		
	第11回	循環器の解剖、生理、病態		
	第12回	心電図、不整脈について		
	第13回	リスク管理について		
	第14回	テスト対策		
	第15回	期末試験		
教科書		呼吸リハビリテーションの理論と技術		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		義肢装具学		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		井黒萌	科目副担当	
目 標	総合	装具、義肢（義足・義手）の目的や分類、各部品の名称や働きの理解、分類や構造など基本事項		
	行動	0		
講 義 計 画	第1回	義肢学総論 切断者のリハビリテーション●切断の定義・原因・部位・切断術的处理		
	第2回	切断者の評価義肢基本事項●断端長、断端周径、筋力●義肢装着前後訓練●リハビリ		
	第3回	義肢パーツ基本事項①(足部、義足ソケット)●通常歩行と義足歩行の足部の動きの違い		
	第4回	義肢パーツの基本事項②(膝継手)大腿義足の基本事項①●膝継手(立脚制御機能、遊脚		
	第5回	大腿義足の基本事項②(アライメント)下腿義足の基本事項①●大腿義足の歩行の特徴		
	第6回	下腿義足の基本事項②(アライメント)膝義足、サイム義足の基本事項●下腿義足のべ		
	第7回	股義足の基本事項●股義足対象の切断●股義足の歩行の特徴●股義足のチェックアウ		
	第8回	足部切断用義足、義手●足部切断用義足の種類、機能●義手の種類と使用部位		
	第9回	装具総論●義肢と装具の違い●装具の分類(長さによる分類、アメリカ機能分類など)		
	第10回	下肢装具①(装具の効果とアライメント)金属支柱付き下肢装具の基本事項●矢状面が		
	第11回	下肢装具②(装具の効果とアライメント)プラスチック短下肢装具の基本事項、特殊装		
	第12回	大腿装具(頸椎装具、頸胸椎装具)の基本事項●体幹装具の基本構造(バンド、支柱の材		
	第13回	体幹装具(胸腰仙椎装具、腰仙椎装具、仙腸装具)の基本事項側弯症用装具の基本事項		
	第14回	側弯症用の装具の基本事項②●側弯症の評価(ベンディング(前屈)テスト、コブ角)●		
	第15回	上肢装具の基本事項スポーツ障害の基本事項●上肢装具の使用目的の分類●上肢装具		
教科書		PT・OTビジュアルテキスト		
授業方法		講義、実技、グループ学習		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		基礎理学療法学 I		
履修時期		3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学の理解ができる		
	行動	解剖学の知識の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	解剖学総論		
	第2回	解剖学骨		
	第3回	解剖学靱帯		
	第4回	解剖学筋肉		
	第5回	循環器		
	第6回	呼吸器		
	第7回	消化器		
	第8回	泌尿器		
	第9回	生殖器		
	第10回	感覚器		
	第11回	中枢神経		
	第12回	末梢神経		
	第13回	アクティブラーニング		
	第14回	アクティブラーニング		
	第15回	アクティブラーニング		
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法		グループワーク・講義		
評価方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		基礎理学療法学Ⅱ		
履修時期		2年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分		専門分野	必選区分	必修
科目主担当		各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学の理解ができる		
	行動	生理学の知識の理解ができる		
講 義 計 画	第1回	生理学総論		
	第2回	循環器		
	第3回	呼吸器		
	第4回	消化器		
	第5回	泌尿器生殖器		
	第6回	血液		
	第7回	ホルモン		
	第8回	体温調節		
	第9回	生体防御		
	第10回	末梢神経の機能		
	第11回	中枢神経の機能		
	第12回	神経伝達		
	第13回	アクティブラーニング		
	第14回	アクティブラーニング		
	第15回	アクティブラーニング		
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集		
授業方法		グループワーク・講義		
評定方法		期末試験		
履修 アドバイス				

科目名		基礎理学療法学Ⅲ	
履修時期	3年次	単位/時間数	2単位/30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	各学年	科目副担当	
目 標	総合	基礎医学の理解ができる	
	行動	運動学の知識の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	運動学総論	
	第2回	上肢下肢運動方向	
	第3回	筋の起始停止	
	第4回	運動力学	
	第5回	仕事とエネルギー	
	第6回	運動の中樞神経機構	
	第7回	動作分析	
	第8回	姿勢	
	第9回	歩行と走行	
	第10回	運動発達	
	第11回	学習と記憶	
	第12回	運動学習の諸理論	
	第13回	アクティブラーニング	
	第14回	アクティブラーニング	
	第15回	アクティブラーニング	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		専門理学療法学 I	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	井黒萌	科目副担当	
目標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する疾患の理解ができる	
講義計画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		専門理学療法学Ⅱ	
履修時期		3年次	単位/時間数 2単位/60時間
科目区分		専門分野	必選区分 必修
科目主担当		金城 三和子	科目副担当
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する評価の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

科目名		専門理学療法学Ⅲ	
履修時期	2年次	単位/時間数	2単位/60時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
科目主担当	蔵元秀一	科目副担当	
目 標	総合	専門的な知識の理解ができる	
	行動	理学療法に関する治療の理解ができる	
講 義 計 画	第1回	オリエンテーション国家試験の学習について	
	第2回	解剖学問題30問	
	第3回	解剖学問題解答解説	
	第4回	生理学問題30問	
	第5回	生理学について解答解説	
	第6回	運動学国家試験30問	
	第7回	運動学解答解説	
	第8回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①	
	第9回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②	
	第10回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題①解答解説	
	第11回	解剖学、生理学、運動学ミックス問題②解答解説	
	第12回	ミックス問題について：まとめ	
	第13回	国家試験まとめ	
	第14回	国家試験共通問題100問	
	第15回	国家試験共通問題100問	
教科書		必修ポイント（医歯薬出版）、理学療法士国家試験問題集	
授業方法		グループワーク・講義	
評定方法		期末試験	
履修 アドバイス			

■授業科目	地域理学療法学Ⅰ
-------	----------

履修時期	理学療法学 昼間主 2年	責任担当教員	ノウス真紀
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	【一般教育目標(GIO)】介護保険サービスを中心とする地域リハビリテーションにおいて、医療技術者である理学療法士が、医療モデルと生活モデルの2つのアプローチにより対象者の復権に関わっていく流れを理解する。 【行動目標(SBO)】急性期から維持期(生活適応期)に至るまでの理学療法士のアプローチについて、関連する法・制度や各種サービスについて学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学 概論 [地域理学療法概念] ② 地域理学療法を支えるシステム [福祉関連法的諸制度、障害者の定義] ③ 地域理学療法を支えるシステム [障害者福祉の実施体制、社会資源] ④ 地域理学療法を支えるシステム [介護保険制度] ⑤ 介護保険制度 [要介護認定ケーススタディ] ⑥ 地域理学療法の展開 [生活者としての対象者、ニーズの把握] ⑦ 地域理学療法の展開 [介護保険サービスとその評価] ⑧ 介護保険サービス [ケアプラン、症例検討] ⑨ 地域理学療法の展開 [入所サービスの展開] ⑩ 地域理学療法の展開 [通所サービスの展開] ⑪ 地域理学療法の展開 [訪問における理学療法の展開] ⑫ 地域理学療法の展開 [介護予防の展開] ⑬ 介護予防運動プログラムの実践 [運動プログラム(個別・集団)の実技演習] ⑭ 地域理学療法分野の国家試験対策 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	国家試験に幅広く出題されるだけでなく、実務で必要となる内容が多く含まれていま		
担当教員(分担者)			

■授業科目	地域理学療法学Ⅱ
-------	----------

履修時期	理学療学科 昼間主 3年	責任担当教員	米須正男
単位	2単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	実習Ⅴ(地域実習)を迎えるにあたり、在宅における疾患別の理学療法評価や訓練方法、リスク管理等の特徴について学習する。また、医療・介護現場で必要とされるカンファレンス等の会議への参加、各種帳票類についての記入方法など具体的な業務について学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学Ⅱの概要 ② 生活環境の整備 住宅改修(解説) ③ 生活環境の整備 住宅改修(ケーススタディ) ④ 生活環境の整備 福祉用具(解説) ⑤ 生活環境の整備 シーティング(解説) ⑥ 生活環境の整備 シーティング(実例紹介) ⑦ 地域理学療法のリスクマネジメント ⑧ 地域理学療法の実際 健康状態の評価 ⑨ 地域理学療法の実際 居宅高齢者の体力増進とリスク管理 ⑩ 地域理学療法の実際 脳血管障害 ⑪ 地域理学療法の実際 骨折 ⑫ 地域理学療法の実際 慢性呼吸不全 神経変性疾患 脊髄損傷 ⑬ 地域理学療法の実際 脊髄損傷 成人脳性麻痺 ⑭ 地域理学療法の実際 認知症 終末期における理学療法 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	実際の対象者との関わりをイメージしながら取り組んでください。		
担当教員(分担者)			

■授業科目	地域理学療法学Ⅰ
-------	----------

履修時期	理学療法学科 2年	責任担当教員	ノウス真紀
単位	2単位	時間	30時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	【一般教育目標(GIO)】介護保険サービスを中心とする地域リハビリテーションにおいて、医療技術者である理学療法士が、医療モデルと生活モデルの2つのアプローチにより対象者の復権に関わっていく流れを理解する。 【行動目標(SBO)】急性期から維持期(生活適応期)に至るまでの理学療法士のアプローチについて、関連する法・制度や各種サービスについて学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学 概論 [地域理学療法概念] ② 地域理学療法を支えるシステム [福祉関連法的諸制度、障害者の定義] ③ 地域理学療法を支えるシステム [障害者福祉の実施体制、社会資源] ④ 地域理学療法を支えるシステム [介護保険制度] ⑤ 介護保険制度 [要介護認定ケーススタディ] ⑥ 地域理学療法の展開 [生活者としての対象者、ニーズの把握] ⑦ 地域理学療法の展開 [介護保険サービスとその評価] ⑧ 介護保険サービス [ケアプラン、症例検討] ⑨ 地域理学療法の展開 [入所サービスの展開] ⑩ 地域理学療法の展開 [通所サービスの展開] ⑪ 地域理学療法の展開 [訪問における理学療法の展開] ⑫ 地域理学療法の展開 [介護予防の展開] ⑬ 介護予防運動プログラムの実践 [運動プログラム(個別・集団)の実技演習] ⑭ 地域理学療法分野の国家試験対策 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	国家試験に幅広く出題されるだけでなく、実務で必要となる内容が多く含まれていま		
担当教員(分担者)			

■授業科目		地域理学療法学Ⅱ	
履修時期	理学療法学科 3年	責任担当教員	米須正男
単位	2単位	時間	15時間
科目区分	専門分野	必選区分	必修
授業の目標	実習Ⅴ(地域実習)を迎えるにあたり、在宅における疾患別の理学療法評価や訓練方法、リスク管理等の特徴について学習する。また、医療・介護現場で必要とされるカンファレンス等の会議への参加、各種帳票類についての記入方法など具体的な業務について学習する。		
授業内容	① 地域理学療法学Ⅱの概要 ② 生活環境の整備 住宅改修(解説) ③ 生活環境の整備 住宅改修(ケーススタディ) ④ 生活環境の整備 福祉用具(解説) ⑤ 生活環境の整備 シーティング(解説) ⑥ 生活環境の整備 シーティング(実例紹介) ⑦ 地域理学療法のリスクマネジメント ⑧ 地域理学療法の実際 健康状態の評価 ⑨ 地域理学療法の実際 居宅高齢者の体力増進とリスク管理 ⑩ 地域理学療法の実際 脳血管障害 ⑪ 地域理学療法の実際 骨折 ⑫ 地域理学療法の実際 慢性呼吸不全 神経変性疾患 脊髄損傷 ⑬ 地域理学療法の実際 脊髄損傷 成人脳性麻痺 ⑭ 地域理学療法の実際 認知症 終末期における理学療法 ⑮ まとめ(テスト)		
教科書 参考文献	【教科書】 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学 第4版, 医学書院. 【参考文献】		
授業方法	テキストの内容に沿いながら、必要に応じたケーススタディなどを通して学習する。		
評価方法	学科試験の結果を基に、課題レポートや小テスト、受講状況を加味して総合的に判断する。		
履修アドバイス	実際の対象者との関わりをイメージしながら取り組んでください。		
担当教員(分担者)			